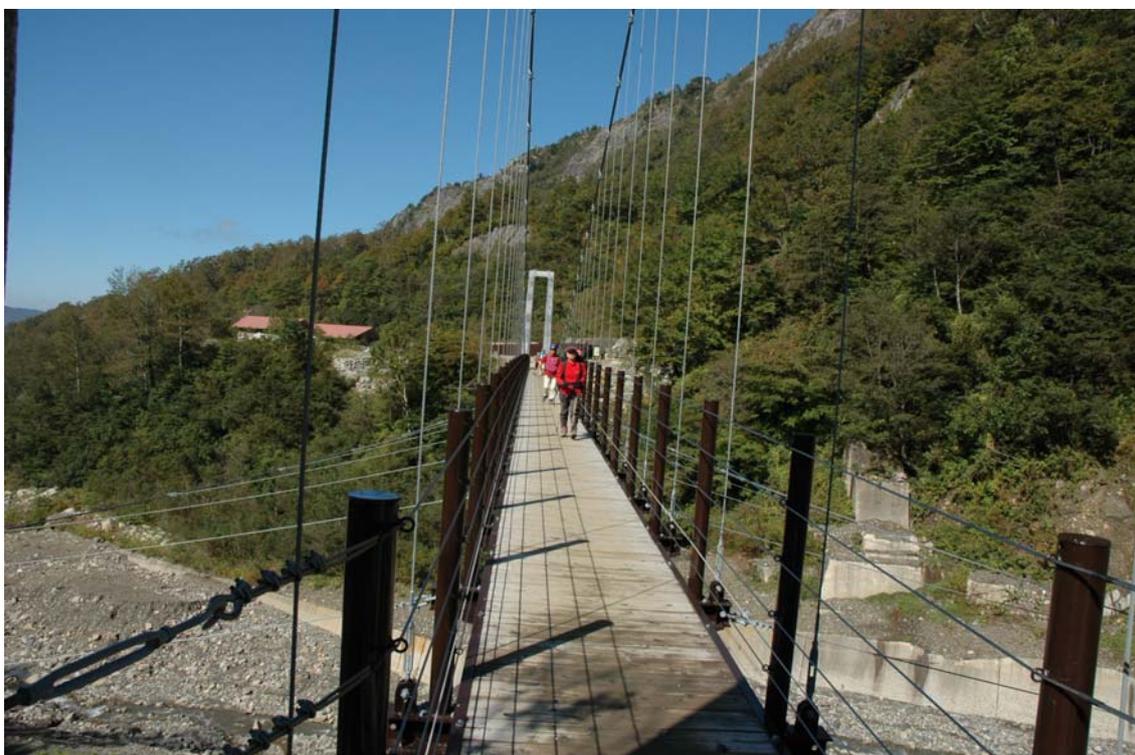


# やまど



創部55周年 記念号

別当出合の吊橋



左奥の建物は休憩舎、右下のコンクリートは旧吊橋のアンカー部 (by N. Toga)

金沢大学ワンダーフォーゲル部 OB 会会報 vol. 28

## 目 次

			(頁)
OB会会長あいさつ「ベルクハイムへの憧れ」	20期	久富 象二	1
【追悼文】故 駒崎正人君を想って	53期	中村 賢人	2
【創立 55 周年記念OB会総会・懇親会】			6
【OB会活動便り】			
近畿支部活動報告	11期	加藤 忠好	16
東海支部活動報告	24期	坪井 陽典	27
2013 野沢温泉スキー合宿に寄せて	12期	野村 益巳	31
【投稿ページ】			
小豆島の名勝・寒霞溪を登る / テントを買いました	6期	合津 尚	37
小川修司さん古希記念・北岳の山旅			
—北岳草との出会いを求めて—	8期	篠島 益夫	40
14期 仁藤 早苗さんより			43
黒部下の廊下の難易度は？	15期	舟田 節子	44
明治は続くよ、いつまでも 四高ゆかりの明治村	17期	小島 敬	48
【事務局から】			
2013 年 秋の小屋作業	15期	奥名 正啓	51
OB会愛唱歌 「森のうた」 譜面(一部修正)			53
KUWVOB会 会計報告			55
事務局から			56

### 表紙の言葉<別当出合の吊橋>(梅 典雅/19期)

久富会長から依頼され、引き続いて表紙の写真を受け持つことになった。前の5号は、ワンゲルに縁(ゆかり)ある石川県内の山の姿を載せたが、今回は、会長とも相談の上、ここ10年ほどの間に新設あるいは改築された白山の施設5つを選び、いきさつや現況について少し述べてみることにした。

別当出合の吊橋が新しくなったのは、2004(平16)年。5月17日に発生した別当谷の土石流によって、旧吊橋が全壊し、流されたためだ。

当時、ぼくは、白山の登山道や施設を管理する県自然保護課に勤務していたが、土木部の設計担当では、復旧は秋になるとのこと。しかし、知事に一喝され、突貫工事が始まり、7月24日に開通となったのは、まさに奇跡的？担当者の苦労は並大抵ではなかったはずだ。

この橋は、全長117mで、標高1,000m以上にある吊橋としては、日本最長というふれこみ。長さ48mの旧吊橋より9mも高い所に架けられており、以前のように橋を渡るのに下って登り直す必要もなく、揺れも小さい安全・快適な橋となった。

なお、2006年にも山腹崩壊があり、別当谷側に寄っていた砂防新道(別当覗〜甚之助間)の一部を尾根側に付け替えた。

## 「ベルクハイムへの憧れ」

OB 会会長 久富 象二(20 期)

55 周年記念総会を終えた 10 月 19 日の土曜、15 期の奥名さんと 22 期の黒崎君の 3 人でベルクハイムへ小屋じまいにでかけた。雨が落ちてきそうな曇り空。寺津のゲートを借用した鍵で開けて、「落石のため通行止め」の県道を難なく通過して犀川ダムへ到着。居合わせた管理事務所の方に県道工事の様子を尋ねる。「道路から見えない箇所を工事しているのではないか。それよりイノシシが増えてエサを掘り起こすので崖上から落石があって、そっちの方がやっかいや。」

ダムサイトの道は草が伸びていて危うく高桑さんの遭難碑を見落としそうになる。缶ビールは忘れなかったが、鎌を持ってくるのを忘れた。アサヒスーパードライをお供えしてお参り。高桑さんはキリンの方がよかったかな。

雨量計を過ぎた石の道は台風の雨のため冠水。高巻きの取っ付きを見つけられず、渡渉。黒崎君、堅実なルートで先頭を渡る。ベルクハイム着。屋根のトタンが 3 分の 1 くらいはがれ、おまけに屋根板がズレて雨漏りのため小屋の一部に水が溜まっている。ここでも黒崎君、活躍。脚立から一度落ちそうになるも、屋根の応急処置を終了。沢から水を苦労の末貫通させる。水洗トイレの水も勢いがよい。完璧な配管工事。小屋の掃き掃除と拭き掃除。雑巾が瞬く間に真っ黒になる。内壁がポロポロとこぼれている。

お昼に奥名さんからビールとかりん糖とみかんをいただいた。(チョコもだったかな)僕はみそ汁を作った。具は茸。倉谷で採った!のではなく、イオンで買った普通のシメジとエノキ。ちょっとしょっぱかった。それとソーセージを炒めた。

ホースを片付け、年老いてしまったベルクハイムに心を残して帰路についた。今度は、ちゃんと泊まろう。(どなたかご一緒しませんか。カレーくらいなら作れますよ。)

ダムの手前で、奥名さんのお知り合いからブルーシートのテントに誘われる。4、5 人で薪の火を囲んで宴会中。メッタ汁と栗、それに高級魚キジハタをごちそうになった。皆さんワングルとベルクハイムのことはよくご存知。「舟田さんは元気か。」「田村さんは最近どうしてる。」「ベルクハイムに 2m くらいのヘビが住み着いって、出入りするのを 2、3 回見たぞ。」「ありゃあ、小屋の主や。」小屋の掃除で、脱皮した皮を見つけた。

倉谷へ行くと、こんな話が聞けて、こんな体験が何気なくできてしまう。時の流れには逆らえないけれど、ベルクハイムを長生きさせる努力は必要だと思っています。

私はもう 5 年間、会長を務めます。どうぞよろしくお願いします。

11 月 23 日に、53 期駒崎さんが富士山で遭難されました。ご冥福をお祈りするとともに、ご家族の方々に心安らぐ日の訪れが一日も早いことをお祈りします。

軽々に教訓を述べることは避けねばなりません。ただ、現役生、OB 共にあらためて安全な山行に心したいと思います。

先月の 11 月下旬に、私の同期である 53 期 駒崎正人君が亡くなったという連絡を受けました。駒崎君は 11 月上旬に富士山に登りに行くと言い残し、下山予定日を過ぎても連絡が取れない状態でした。警察は駒崎君が富士山で遭難した可能性があるとみて、山岳会の方々と協力して彼を捜索していました。そして同月下旬、一般登山者の方が駒崎君の遺体を発見しました。警察の調査によると、駒崎君は富士山を登頂した後、下山する途中に滑落したとの事です。その直後に意識を失い、痛みや恐怖を感じることなく、眠るように亡くなったそうです。

駒崎君は私達が 3 回生になった 2010 年 5 月に、ワンダーフォーゲル部に入部しました。初めて一緒に山登りした際に受けた印象は、無口で大人しい人です。しかし同時に、彼は道にある小さな花や、葉と葉の間から差し込む木漏れ日、遠くに見える山々といった景色を常に見ながら登っている様に感じられました。その時から、彼は人一倍山の魅力を感じ取っていたのかもしれません。

夏合宿では、駒崎君は南アルプスを縦走しました。落ち着いた雰囲気でも体力もあり、メンバーから信頼されていたそうです。ワインが好きで、夏合宿でもお気に入りのワインを持参していました。また、仙丈ヶ岳の山頂で大好きなスピッツの歌を熱唱し、印象的なエールを送りました。

夏合宿が終わった直後に、アメリカはバージニア州にある大学へ留学すべく金沢を立ちました。留学中も連絡を取り合い、あちらの様子を写真で送ってくれたことを覚えています。現地の山に登ったり、クライミングをしたりと、彼の活発さが伺えました。帰国後も国内外を問わず世界の山々を登り、飲み会等で会った際にはその時の写真を見せてもらいました。駒崎君の山話を聞きながら酒を飲むことが、飲み会での楽しみの一つでした。

私は駒崎君を 53 期生同期であり、友であると同時に、一人のワンダラーとして尊敬しておりました。それは、彼が行きたいと思った山は必ず登るという積極さがあったからです。インターネットの SNS サイトに次々と投稿されていく彼の山写真を見て、私も山好きとしてかくありたいと思っていました。いつか機会があれば、そんな彼ともう一度山に登りたかった。そして、彼の山話をもっと聞きたかった。改めてもう会えないと思うと、悲しみが込み上げてきます。

駒崎君からは、友として掛け替えのない思い出を頂きました。駒崎君のご冥福を心よりお祈り申し上げ、結びの言葉とさせていただきます。

夏合宿で団旗を持つ駒崎君(後列右から二番目)



留学先のバージニア州での一枚



## 55周年記念行事参加者名簿

### 【OB】

期	氏名	
前顧問	前田	達男
顧問	竹内	義晴
03期	岩井	修
03期	鈴木	兵一
03期	高島	誠
03期	田村	昭夫
03期	登内	郁夫
03期	西尾	皓史
04期	清水	徹男
04期	高田	昌嗣
04期	森島	稔
04期	佐藤	秀紀
05期	影近	憲一
06期	池田	進
06期	石橋	毅
06期	小川	修司
07期	澤田	孝雄
07期	四十万	利之
07期	福田	繁機
07期	村田	泰恵
07期	吉村	弘二
08期	穴田	昭一
08期	伊豫	欣二
08期	小谷	太平
08期	篠島	益夫
08期	野村	孝弘
08期	藤井	洋治
08期	山村	嘉一
09期	伊藤	俊成
09期	伊藤	博道
09期	清水	一
09期	白井	勇
09期	鍋島	武
09期	山中	重夫
10期	寺本	典生
10期	吉野	和彦
11期	青柳	健二
11期	井上	史三
11期	井上	和子
11期	片田	寛
11期	上村	人史
11期	北川	邦夫
11期	芝田	真
11期	高田	和守

### 【OB】

期	氏名	
12期	赤地	賢一
12期	大出	松世
12期	河辺	憲次
12期	西田	一秀
13期	辰野	隆義
13期	橋正	徹
13期	吉田	穂積
13期	吉本	良治
14期	清家	雅幸
15期	上馬	康生
15期	宇野	潔
15期	奥名	正啓
15期	坂尻	忠秀
15期	舟田	節子
15期	松縄	宏
15期	松林	知一
15期	間所	新一
16期	川端	俊朗
16期	北川	隆次
16期	中野	淳一
17期	小島	敬
17期	渡辺	和文
18期	椿川	利弘
18期	藤森	忠夫
18期	岡部	伸一
18期	横井	恒雄
19期	梅	典雅
20期	久富	象二
20期	深田	進
20期	深田	厚子
21期	石田	郁子
21期	梅	睦美
22期	黒崎	敏男
22期	小林	正人
22期	桜井	俊一郎
22期	森	恵利子
22期	安井	聡
23期	小久保	光将
23期	鳥越	伸博
23期	中川	晃成
23期	名倉	均
24期	坪井	陽典
26期	畠山	潤

(OB : 計87名)

### 【現役】

期	氏名	
56期	愛宕	将希
56期	板垣	豊
56期	井上	雄大
56期	酒井	浩人
56期	出倉	直紘
56期	平原	岳悠
56期	松井	敬弘
56期	山岸	雄太
57期	家原	帆乃香
57期	池尻	隆紘
57期	池田	勇馬
57期	奥原	康司
57期	笠原	朋与
57期	竹本	和生
57期	取田	礼讓
57期	Benjarat	Sukgasi
57期	百瀬	幸
57期	緒方	一貴
57期	川原	一晃
58期	今長谷	昂平
58期	梅田	雄大
58期	坂本	沙紀
58期	立花	良彬
58期	田所	耕平
58期	田巻	柗野
58期	田村	隆典
58期	古家	正規
58期	堀田	成美

(現役 : 計28名)

# K U W V 創 立 5 5 周 年 記 念 行 事

総会・懇親会(於：KKRホテル金沢)

～今回も全国から多くのOBが参加～

## 総会報告

(司会：23期 中川 晃成)

冒頭、久富象二会長(20期)が55周年記念行事に多くのOBが参集されたことに感謝の辞を述べ、今後の活動への協力を依頼した。

次に、鳥越伸博事務局長兼会計から過去5年間の活動報告及び会計報告(別掲)が行われ、承認を受けた。

この後、次期5年間担当する新役員の選出に移り、下記のメンバーが満場一致で選出された。

これに伴い、退任役員(19期 梅典雅、23期 中川晃成、23期 鳥越伸博の3氏)から任期を振り返っての退任挨拶があった。

併せて新任を含む次期役員が今後の抱負を述べた。

## 新役員(平成25年～30年)

会長	20期	久富 象二
副会長	16期	北川 隆次
事務局長	22期	森 恵利子
会計	22期	黒崎 敏男
幹事	23期	名倉 均(名簿担当)
	22期	小林 正人
	37期	若山 悟
アドバイザー	15期	奥名 正啓

## 【5年間の主な活動】

(平成20年9月～平成25年8月)

1. 創立50周年記念総会・懇親会・記念山行の開催(20年9月)  
総会・懇親会参加者  
OB115名、現役23名、来賓4名  
計142名  
記念山行(医王山)  
OB29名、現役18名  
計47名
2. OB会愛唱歌「森のうた」CD作成・販売  
CD販売数 約100枚
3. 会誌「やまざと」vol.23～vol.27の発行(毎年12月発行、計5回)
4. 小屋酒場  
犀川ダムへの県道通行止め長期化やハチの巣の影響があり、本格的な実施は困難であった。
5. 現役とOB役員との懇談会  
3回(21年3月、22年3月、25年4月)  
開催

他に、野沢温泉スキーツアー、白山南竜PWが毎年開催されたほか、24年4月に東海支部の設立があった。

## 懇親会の模様-----

(司会：22期 森 恵利子)

総会終了のあと、隣の会場に場所を移して懇親会が開催された。

懇親会にはOB、現役部員に加え、現顧問の竹内義晴先生、前顧問の前田達男先生にもご出席いただき、総勢で110名を超える方々の参加で会場は熱気に包まれた。

まず、現役部員を代表して56期井上雄大主将から出席者をうならせる素晴らしい挨拶があった後、久富会長から改めて今後の抱負が述べられた。

続いて、地元フォークグループの「でえげっさあ」の皆さんによるミニコンサートに移り、さわやかな演奏に会場が酔いしれた。最後にワングルOB会愛唱歌「森のうた」を全員で合唱してコンサートを締めくくった。

この後、竹内顧問による乾杯のご発声を合図に懇親に入った。

期の近いグループに分かれた各卓では間髪を入れず盛り上がり、大いに語り、飲む各氏の姿が見られた。

十分に懇談頂いた後、各期が壇上に登場するアトラクションに移った。

OB各期からはそれぞれが現役の時代に歌ったなつかしの歌の合唱がなされたが、中には派手な衣装と踊りで会場を驚かせるグループもあり、年齢に関係なく元気を維持している姿はさすがなものであった。

この後に現役部員が登場し、今年の夏合宿の活動報告を行うとともに山に関するクイズが出され、こちらも場を盛り上げた。

アトラクションの最後には15期の舟田節子さんによる篠笛2曲の演奏があり、しっとりとした雰囲気会場を包んだ。

この後も懇親が続いたが、楽しい時間はあっという間に過ぎ、最後に前田前顧問から心あたたまる閉会挨拶を頂き、お開きとなった。

参加者は5年後の再会を誓い合いながらそれぞれの家路についた。

## 【55周年記念行事収支】(円)

(収入)

参加費 87名	435,000
OB会補助	485,866
計	920,866

他に8期 故 柳川さんのご家族からご厚意がありました。また、23期の皆様からご寄付がありました。

(支出)

KKRホテル	825,775
開催案内印刷郵送	41,608
総会資料印刷	8,065
事務費	1,995
謝礼その他	43,423
計	920,866

総会の司会をする  
中川晃成さん (23期)



あいさつ OB会会長  
久富象二さん (20期)



退任役員紹介  
鳥越伸博さん (23期)、梅雅典さん (19期)、中川晃成さん (23期)



懇親会司会  
森恵利子さん (22期)





「でえげっさあ」  
ミニコンサート



「でえげっさあ」と共に  
「森のうた」



乾杯あいさつ  
顧問 竹内義晴 先生



あいさつとアトラクション  
3~4期の皆さん

8～9期の皆さん



5～7期の皆さん



10～11期の皆さん



12～14期の皆さん



15～16期の皆さん



17~20期の皆さん



21~26期の皆さん



しっとりどっ。篠笛の演奏  
舟田節子さん (15期)

盛り上がった現役  
によるクイズ



金沢大学ワンダーフォーゲル部創立 55周年記念パーティー



閉会あいさつ  
前顧問 前田達男先生

祝55周年 参内期史

Wolft die Hohokimus, So braucht die...  
 fass...  
 Beine...

**燭**

2013.9.22

西尾 昭史  
 十周年記念号

KUWV 創立55周年

**穂**

2013.9.22

元氣な石巻、60周年記念、6期石巻教、共元元元、7期四万利

祝55周年 参内期史

自然の仲間...  
 野村 孝弘

**糖**

2013.9.22

10年序にも...  
 野村 孝弘

5年後に元気で...  
 山の子、天気の山行、苦い卒業、55E、11期前田和叶、山が自然の

**木**

2013.9.22

11期 片田 寛

KUWV 創立55周年

**翠**

2013.9.22

12期 西田 子たけ、11期 西田 和史

KUWV 創立55周年 (15期、16期)

**剣**

2013.9.22

15期 西田 和史

KUWV 創立55周年

**鬃**

2013.9.22

19期 柳 典雅

KUWV 創立55周年

**白**

2013.9.22

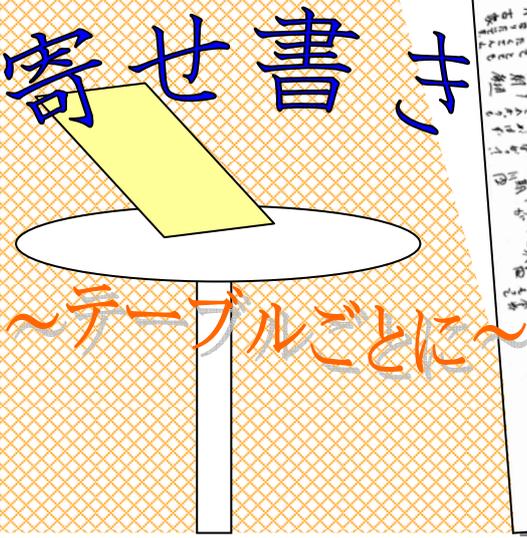
21期 石田 利之

KUWV 創立55周年

**砂**

2013.9.22

21期 石田 利之



KUWV 創立55周年

**簞**

2013.9.22

21期 石田 利之

## 金大ワンゲル 55 周年 懇親会

### 現役主将挨拶

56 期 井上 雄大

OB会の皆さん、初めまして。56 期部長の井上雄大と申します。

本日は金沢大学ワンダーフォーゲル部 55 周年記念の総会という栄えある場に我々現役部員をお招きいただき、本当にありがとうございます。

我々56期は、現在14名、57期、58期も同じく14名で、合計42名、4回生も含めると50名という大所帯です。一時期部員数は減っていたものの、最近の山ブームのおかげか入部希望者は増えており、これほど多くの方がこの部活に所属し、山登りの魅力に取りつかれていくということはとても嬉しいことだと思っています。

自分は山の魅力というのはとても不思議なものだと思います。よく「それだけ大変な思いをしてなんで山なんて登っているの？」と聞かれることがあるのですが、その度に山の魅力というものを一言で簡潔に伝えられないことにもどかしさを感じつつも、このなんとも言い表せられないけれど、知らず知らずのうちに取り憑かれ、また気付いたら登っているという、それ自体が山の魅力そのものなのではないかなと考えたりもします。

半年ほど前、OB会の役員の方々とお食事をする機会があったのですが、そこでお話を伺うと、OB会の方々は今役の僕らよりもより一層山に熱く、今でもまだ山を楽しんでいらっやっていると、自分の親と同じか、もしくはそれ以上年が離れていても、こと山に関して語り合うと現役もOBの方々も同じであり、皆目がキラキラ輝いているということに感動しました。本日も様々な年代の方と、たくさん山の話ができるのではないかと楽しみにしております。

僕達は入部した当初から部室や団体装備が揃っており、大学の公認サークルということで様々な支援もしていただいております。このような良い環境で山を楽しめるのも、ひとえにこれまで連続と続いてきたワンダーフォーゲル部の歴史を、築きあげて下さった皆様のご尽力のおかげです。

僕達現役部員は、この金沢大学ワンダーフォーゲル部で活動できることを誇りに思い、これからも山を目一杯楽しんでいきたいと思っています。

現役主将 あいさつ  
井上雄大さん (56期)



# 金沢大学ワンダーフォーゲル部 55周年記念

H25年9月22日

## 発表の流れ



- 1 ●今年一年の活動
- 2 ●夏合宿
- 3 ●クイズ

ついに

□ 金沢大学ワンダーフォーゲル部  
55周年!

- ## 今年の一一年間の活動
- 4月 新入生向け説明会、花見、新歓ハイク①
  - 5月 新歓ハイク②、新トレ
  - 6月 結団式、トレーニング山行③
  - 7月 トレーニング山行④、ピアガーデン
  - 8月～9月 夏合宿、55周年記念懇親会
  - 10月 小屋作業
  - 11月 金大祭
  - 12月 忘年会、冬合宿
  - 1月～2月 雪上訓練
  - 3月 追いコン、1・2年山行
  - 4月 春合宿



## 今年と2010年度の夏合宿のバリエーション(?)を比較してみた。

### 2013今年の夏合宿

北海道	北アルプス
南アルプス	北アルプス
白山	北アルプス

### 2010年の夏合宿

北アルプス	北アルプス
南アルプス	北アルプス

院生 3人  
4年生 8人  
3年生 14人  
2年生 14人  
1年生 14人  
計 51人(男35人:女16人)  
ただし実働メンバーは1～3回生です。

## 今年は人数が多いんです!

### 北海道パーティ

リーダー  
井上 雄大




## 北海道Pクイズ解答!

ちなみに  
北海道:トムラウシ山2141M  
十勝岳 2077M  
旭岳 2291M  
ネパール:チョ・オユー-8201M

# 旭岳!



- 北海道の最高峰の山といえばどれでしょう?
- ①トムラウシ山!
- ②十勝岳!
- ③旭岳!
- ④チョ・オユー!

## 白山Pクイズ!

- 霊峰として名高い山岳ですがこの中で白山が含まれないものはどれでしょう?
  - ①日本三霊山
  - ②日本七霊山
  - ③日本百名山
  - ④日本四名山
- 

### 白山パーティ

リーダー  
平原 岳悠



### なぜ白山は四名山じゃないのか

□信仰の対象として見た日本三霊山や日本三名山などとはちがひ、山を愛する近代日本人が昔とは異なる評価基準(例えば登山家から見た評価、一般的観光評価など)をもって決めたから。

背景は御獄山

### 白山P解答!

- 日本三霊山 富士山・白山・立山
- 日本7霊山 富士山・白山・立山・大峰山(奈良県)・釈迦ヶ岳(奈良県)・大山(鳥取県)・石鎚山(愛媛県)
- 日本三名山 富士山・白山・立山
- 日本四名山 富士山・立山・御嶽山(長野県)・大山(鳥取県)

### 温泉パーティ

リーダー 出倉直弘

### クイズ

水晶岳という山がありますが実際には水晶はとれるでしょうか

- 1 とれる
- 2 とれない

### 南アルプスパーティ

リーダー 細川武彦

ここはどこでしょう?

### 南アルプスクイズ!

- 日本で二番目に高い山はどこでしょう?
- ① 北岳!
- ② 槍ヶ岳!
- ③ 大喰岳!
- ④ K2 !!

□○山梨県3192m ○長野県3180m ○長野県3101m ○パキスタン8611M

### 南アルプスパーティ

リーダー 細川武彦

ここはどこでしょう?

### 槍穂パーティ

リーダー 板垣豊

### 雲の平パーティ

リーダー 山岸雄太

### 槍穂Pクイズ!

- ワングル顧問の竹内先生は槍ヶ岳のエリアに存在しない北鎌ルートを踏破したことがある?! ○か×か?
- 答えは○
- 北鎌ルートは岩場な上にルート案内記号もないので、高い岩登り技術とルートファインディングを必要とする危険なルート! それを踏破する竹内先生はやはり凄い

### 最後に

みんなで年をとっても山に登りましょう!!

### 雲の平P解答!

じいだけ!

### 雲の平Pクイズ!

飛騨山脈の雲の平の東に位置する

## <祖父岳>

の読み方はどれでしょう?

- じいだけ
- じっちゃんだけ
- おやとだけ
- そふだけ

## 現役参加者が 感想を寄せてくれました。

### 金沢大学ワンダーフォーゲル部

57期 池田 勇馬

この度、新しく部長を務めさせて頂くことになりました。57期の池田勇馬と申します。歴史ある金沢大学ワンダーフォーゲル部の部長になったことを大変光栄に感じております。今年度の活動について、また自分の部長としてのこれからについて書かせて頂きます。

今年の活動を振り返って最も印象に残ったことは、OBの方々との交流でした。ベルクハイム偵察の際に初めてOBの方々にご一緒させて頂きました。始まる前は緊張していましたが、実際にお会いすると大変気さくで元気な方々でびっくりしました。登山に対する情熱が現役以上であり、一緒に登っていてとても心強く感じました。55周年記念総会にもたくさんのOBの方々とお話させていただき、現役当時の登山環境や活動内容、昔のエピソード等たくさんを教えて下さり、とても充実した会でした。OBの方々とのこうした交流によって、また新しいワンダーフォーゲルの楽しさを見出すことができ、より一層部活を盛り上げていこうという活力が出来ました。

昨今の登山ブームの影響かはわかりませんが、今年も多くの後輩が入部してくれて嬉しい限りです。しかし、規模が大きくなると、同様に活動の責任も重くなっていきます。より良い部にするために、これから部長として尽力したいと思います。また、そうするために先輩やOBの方々との交流を深め、登山のレベルアップや技術の向上を目指したいと思います。

まだまだ未熟なところしかない部長ではありますが、精一杯頑張りますので、みなさん、これから約一年間どうぞよろしくお願い致します。

### 山がくれるパワー

56期 板垣 豊

先日行われたKUWV55周年記念総会・懇親会は私にとって非常に有意義なものでした。

おいしい料理がいただけたこともあります(笑)、

何より先輩方と触れ合えたことです。先輩方は現役生に積極的にお声を掛けてくださり、私は自分の出身地や昔のワンゲルとの違いなど楽しくお酒を飲みながらお話しすることができました。また、各期生の出し物や歌唱では先輩方はとてもエネルギーで圧倒されたのを覚えています。

山が登った人にパワーをくれるのだなあと感じ、私は先輩方に逆に元気をもらいました。一方で、現役生の夏合宿の紹介や簡単なクイズでは負けないくらい若さをアピールできたのではないかと思います。

もう私は最後の夏合宿も終わり、現役を引退しましたが、何歳の時でも山がくれるパワーを探して山を登っていきたく強く思いました。

### 歴代の先輩方と共に

57期 家原 帆乃香

この度は記念すべきワンダーフォーゲル部55周年総会、および懇親会にお招きいただきありがとうございました。OBの方々には私よりも一回り、二回りも年上の方ばかりで話しかけるのに少し緊張していましたが、美味しいお料理を囲みながらたくさんのOBの方々とお話しすることができました。

そこで、昔のワンゲルの思い出や山事情から近況まで実にいろんなお話を聴くことができました。その中で私が感じたことが二つあります。

一つはベルクハイムについて。実際に小屋の建設に携わった方と少しお話でき、当時の思い出や苦勞をきかせてもらいました。また、「今ベルクハイムどうなっている？」と質問を受けることも多くあり、金大ワンゲルにとってベルクハイムがどれだけ特別なものであったかを考えるきっかけとなりました。今、小屋作業は年に1回ほど。しかも小屋に行くまでの道がハードということもあり現在、作業をしに行くのはある程度登山経験のある数人だけとなっています。現役部員の中には行ったことのない人がほとんどであり、1年生は存在自体知らない人のほうが多いのではないのでしょうか。OBの方の思い出が詰まった大切な小屋をこれからも守っていくために、現役生がもう少しベルクハイムについて関心をむけるといいなと思

ました。そして金大ワングルの象徴としてこれからも守り引き継いでいかなければならないと感じました。

二つ目はOBの方々の近況について。私は一緒にお話したOBの方全員に「今も山に登られていますか？」と同じ質問をしました。すると、ほとんどの方が上る山の難易度や頻度にはばらつきがあったものの「登っている」と返答がありました。私はそこで、年は違えどやはり皆「山を愛する部員」、私たちとなら変わらないのだなと実感でき嬉しくなりました。私は大学に入ってから何か新しいことをはじめたいという軽い気持ちでワングルに入部したのですが、今や山の魅力に魅了され、登山が大好きになりました。できれば大学を卒業し社会人になっても趣味として続けたい、そしておばちゃん、おばあちゃんになっても登りつづけたいと思っています。そんな私にとって年をとっても山に携わるOBの方たちの姿は私の目標であり大きな励みとなりました。

55年の次はついに「還暦」である60年。金大ワングルはこれからも成長しつづけるはずです。今回のOBの皆様方との懇親会を通じてこの歴史ある部活、そして大好きな山に携われることに誇りを持ってこれからも部活動に励みたいと思います。

## 山の魅力

### 58期 田村 隆典

私は大学に入学した際に「何か新しいことを始めたい。」という思いからワンダーフォーゲル部に入部しました。それまでは登山経験などほとんどなく、自分でもまさかここまで山の魅力にとりつかれることになるとは思っていませんでした。KUWVOB 会 55 周年記念総会・懇親会の時の先代の部長の話にあったように「山の魅力」を一言で表すことはできません。同じ山でも季節や天候、パーティーのメンバーが異なれば、全く違う印象を受けます。山行での食事やテント泊にも日常生活では体験できない魅力があります。私は一回生なので山行についていく立場ですが、上回生となり下回生を山行に連れて行く立場となればまた違った楽しみがあることだと思います。私たちを飽きさ

せない、そんな不思議な力が山にはあると思います。

私の初めての夏合宿は北アルプスの「高天原温泉」という秘湯を目指すことを目標に掲げたパーティーでした。6月上旬のパーティーの結団式、25～30キロの歩荷を背負っての2回のトレーニング山行を経て、6泊7日の北アルプス縦走。天候にも恵まれて、高天原温泉への入浴や槍ヶ岳への登頂など、すべての行程をこなすことができました。槍ヶ岳で見た夕日や流星群はとてきれいでした。

KUWVOB 会 55 周年記念総会・懇親会ではOBの方々との貴重な交流の場を設けていただきました。普段なかなか接点を持つことができないOBの方々の話を聞き、歴史の長さを感じるとともに、私たちもいずれはOBとなり次の世代へとこの伝統を継承しなくてはいけないという責任を感じました。また今も登山を続けていられるOBの姿を見て、大学を卒業して社会人となった人までも何十年も惹きつける「山の魅力」の偉大さを改めて感じました。

私たち58期生は14人中12人が大学に入ってから登山を始めました。ワンダーフォーゲル部や登山部のない高校も多くあり、サッカーや野球といったメジャースポーツと異なりメディアに取り上げられることの少ない「登山」を経験したことの少ない人は多くいます。そのような人たちに登山を経験してもらいたい、「山の魅力」を感じてもらいたいというのが私の考えであり、それを伝えるのが私たちの仕事だと思います。



## 近畿支部報告

やまぎとの前号へは近畿支部の活動を報告していませんでした。よって、ここでの報告は約2年間分の活動概要報告です。コースタイムなどの詳しい報告については、近畿支部のホームページをご覧ください。

### 1. H23 サンマパーティ



- ・実施日 2011/10/1(土)～2(日)
- ・場 所 大久保雑草園
- ・参加者 (19名)  
金岩⑤、小川⑥、藤井N⑩、高田⑩、畔山K⑪、畔山C⑪、加藤T⑪、加藤S⑪、森川⑪、赤地⑫、野村⑫、山西⑬、宇野K⑮、宇野A⑮、金井⑮、高村⑮、間所S⑮、間所M⑮、三宅⑮
- ・パーティ報告

心配されていた雨模様の天気予報も、2日間雨が降ることもなく、暑くも寒くもない温暖なサンマパーティ日和の中で実施された。また参加、不参加を問わず差し入れが寄せられ、いろいろな名産が並ぶ超豪華なパーティとなった。

支部代表の金岩さんの挨拶、続いて小川さんの音頭で乾杯、サンマは明石の金井さんの差し入れ、それから小川さんの差し入れにより松茸パーティへ移行。自己申告のジョッキ一杯 200 円の生ビールを飲みながら、炭火焼を楽しんだ。途中、例によって赤地さんが持ってきた衣装で国際的演舞公演が開始、まるでシルクロード美貌団の来演気分が盛り上がった。

腹が膨れてきた頃に全員が畳の上ですわり、くつろいだお茶会を楽しみ、赤地さんによる中国的茶芸が披露された。

気持ちが文化的気分になったところで金岩さん、藤井さんより国際犯罪学会の警備業務報告とそのときに仕入れてきた景品の報告があった。プロジェクターを使って活動報告会、畔山さん作成のDVDで近

畿支部活動報告、金岩さんの個人山行き報告があった。

日も暮れ、バーベQ第2部を開始。9時ごろまで外で談笑し、そこで一旦解散、日帰りの人は帰り、女性連は日帰り温泉、眠い人はシュラフにもぐりこんだ。

翌日は、炭を熾し、あまったもので朝食。差し入れのパン等があり相当豪華なものとなった。

朝食後は、山西さんの植木剪定実演、藤井さんの直樹式包丁研ぎ実演があった。

その後、お茶会、讃岐風うどん打ち講習会、うどん試食会等の多彩な活動の後、全員で会場の後片付けをして解散した。

### 2. 雨中の丹波紅葉狩りPw

- ・実施日 2011/11/19(土)
- ・コース  
JR篠山口＝洞光寺＝神池寺＝五大山登山口＝白毫寺＝JR篠山口
- ・参加者 (11名)  
小川⑥、藤井N⑩、藤井K⑩、畔山K⑪、畔山C⑪、加藤T⑪、加藤S⑪、宇野K⑮、宇野A⑮、間所S⑮、間所M⑮
- ・報 告

五大山Pwは雨のため中止、それでPwの企画者である小川さんが代案を出した。

紅葉狩りといっても布の傘を突き破って頭が濡れるような雨にも拘らず11名が集まった。



まずは篠山の洞光寺、知られざる寺にツアーの観光バスが押し寄せていた。今年は、紅葉が不作と聞いていたのに、なるほどと思わせるような素晴らしい紅葉だった。

入山料を取らないからといって、お賽銭もあげないで写真ばかり取りまくるツアー観光客。これでよいのか日本！を感じてしまった。

雨はさらに強くなる中を妙高山の中腹にある神池寺へ、妙高山というのは仏教での須弥山のことだそう。ここは黄葉が中心、境内は広く、かつては非

常に栄えた寺のようだが、山上にあるためかかなり朽ちていた。

昼食は、五大山登山口の東屋で、こだわりのお吸い物。小川さんが持ってきた松茸がどっさり入ったお吸い物。そういえば我が家で松茸はサンマP以来だから、今年も小川さんが持ってきた松茸だけということになる。

柵目羊羹の大中小をやった。天候も快復し、登山口からすぐの白毫寺に向かった。ここも紅葉の名所だ。正式には五大山白毫寺という。例えPwが中止になったとはいえ、ここに来ない訳には行かない寺だ。

寺に着くとやはり紅葉の名所だけあって、広い駐車場と志納金徴収の建物があった。しかし、観光バスもないし、建物にも人がいない。まるでシーズンオフのようなたたずまいだった。

しかし、紅葉はほぼ盛り、志納金の代わりにお賽銭をあげ、紅葉を賞でた。

帰りにはすっかり空が晴れていた。山国・丹波の秋は雲海で有名だ。明日の雲海準備のためか、雲が山から陸に垂れ下がっていた。

### 3. 別所奥山と山鍋Pw

- ・実施日 2011/12/17(土)
- ・コース

JR ひめじ別所～別所・日吉神社～別所奥山～百間岩～地徳・鹿嶋神社～市ノ池公園

- ・参加者 (20名)

金岩⑤、小川⑥、伊豫K⑧、島林⑩、高田⑩、藤井N⑩、藤井K⑩、畔山K⑪、畔山C⑪、加藤T⑪、加藤S⑪、山西⑬、楠屋⑭、赤地K⑭、宇野K⑮、宇野A⑮、高村⑮、間所M⑮、三宅⑮

- ・報告

集合はひめじ別所駅、快速電車の中で盛り上った様子が伺える。登山口の日吉神社まではすぐであった。晴天かつ風も穏やか。しかし、いきなりの急坂で汗をかく。稜線でいきなり展望が開けた。姫路市街や修理中の姫路城の覆いまでもがはっきりと見える。瀬戸内海は家島群島、その背後に小豆島が大きく見える。最高の登山日和である。さらに進むと深山の趣が出てくる。しかし標高はたかだか 200mそこそこなのである。日頃山に親しんでいる人にとっては頼りないだろうが、久々に山に来た人にとってはうれしい。よって記念写真を一杯撮ることになった。

雄大そうに見える急な登りも、あつと言う間、急な下りもあつと言う間である。ここでは南アルプスの1/10のスケールで時間が過ぎていく。それでいて立派な岩山であり視覚的には十分満足できる山であ

る。縦走路にでるとやはりたくさんの方が歩いていた。

縦走路に出ると景色が一変する。それは昨年の山火事によるものである。山肌が黒っぽいのだ。これまでの明るい晩秋の山からここに出ると、なんだか気味が悪い。それでも懸命に鹿嶋神社への延焼を防いだようで、このあたりの木々は青々、岩肌も明るい。その明るい岩肌の百間岩を下った。老人のための迂回路で下る人は誰も居らず、全員が無事に百間岩を下りられたことは何よりである。山の終着が鹿嶋神社。今日の無事の山歩きを感謝した。神社では、金井さんが迎えてくれた。



市ノ池公園でテントサイトを借り、設営を始める。それと同時に山鍋の準備が始まった。実に手際が良い。金井さん差し入れの明石名産のアナゴを贅沢に味わう。それを食している間に鍋が出来上がっていた。女性パワーの本領発揮である。

山歩きのあとで腹が減っている。乾杯！！そしてすぐに食べ始めた。女性が鍋を取り囲み、男性はその周辺部に座している。これは出遅れると思ったが、さすが優しい女性たちだ。鍋から汁を掬って渡してくれる。どうやら野外に出ると女性は本性の優しさを取り戻すようである。

ビールのみならず、日本酒、赤ワイン、焼酎、10年物のスコッチなどが20人の口でどんどん消費されていく。フグの卵巣の粕漬け、自家製山くらげ、ギンナンなどの珍味もあった。さらに好みに応じて、ラーメン、富山のます寿し、そして愛煙、それぞれがそれぞれの楽しみ方をしていった。ブドウやリンゴ、みかんもあったような・・・

太陽が少し翳ってきた。15時なのに寒さを感じた。せつかく設営したテントに入り差し入れの棹物、シフォンケーキ、福砂屋のカステラで大中小に興じた。何せ20人の大所帯だから格差がはなはだしい。しかし、ここではみんなその結果に笑い幸福であった。

「もう4時だから終わらなくっちゃ・・・」  
テントサイトの終了時間は16時だったのだ。



急いで片付ける。ゴミを集め、テントを撤収する。手際が良い。10分後にはテントサイトを去っていた。鹿嶋神社の大鳥居に着くと百間岩を背景に終バスがやって来た。

#### 4. 六甲前衛の山P w

- ・実施日 2012/1/14(土)
- ・コース

阪急岡本～保久良神社～風吹岩～広場（高座谷）～黒岩～荒地山～なかみ山～荒地山分岐～ゴルフ場～芦屋ゲート＝阪急芦屋川

- ・参加者（14名）

金岩⑤、小川⑥、伊豫K⑧、伊豫A⑩、島林⑩、高田⑩、藤井N⑩、畔山C⑪、加藤T⑪、加藤S⑪、楠屋⑬、赤地K⑬、宇野K⑮、高村⑮

- ・報告

阪急岡本。阪神間ではオシャレな街というイメージがある。しかし、六甲山への登山口も近いので汗臭い集団がいても奇異な目で見られることがない。そのような意味では国際的感覚を持った街であるとも言える。

定刻の9:40には全員が集合し、簡単な説明の後すぐに出発した。神戸は山と海が近い。しかも六甲山系が海岸とほぼ平行に走っている典型的な複合扇状地の地形が見られる。平清盛が福原京にしようとした現在の兵庫区から長田区にかけては平野部があるが、それ以外の地域での平野は海岸に沿って細長くあるだけである。よって、神戸市の市街地の大半は坂の町といっても過言ではない。

岡本から山手の方も住宅地であるが、かなりの急坂である。しかし神戸開港でやって来た外国居留民が展望を求めて、好んで傾斜地に住んでいたからか、神戸では気にせず傾斜地に住む人が多い。むしろ好んで住んでいるかのようでもある。断層崖の上に多くの家が建っているのも事実である。

住宅地が山に尽きるところが岡本八幡宮である。この谷の河原にはいつも猪が寝そべっている。住

宅地の目と鼻の先に猪が寝そべっていると言うのも珍しいであろう。

ここからは急坂、ユックリ歩くが、それでも一汗かく。まだ早い岡本梅林を抜け標高約180mの保久良神社に出る。



段丘の上に立つこの社は古代の磐座から続く歴史の地でそれだけに展望が良い。昔、「灘の一つ火」とよばれる常夜灯があり、海上からの目印になっていたという。暫時のトイレ休憩となった。

ここからは、展望のよいハイキングコースである。しっかりと道に登り、424.5mの三角点に立ち寄り、風吹岩に至る。のんびりとした道である。

風吹岩は登山道の要所だけあって、いつも人が多い。が、今日は人がやや少ない。本格的な休憩は、のちほどということにして、昼食を摂ることにした。いつものように伊豫さんがスープを作る。運動しているが、やはり冬。休憩していると、そよ風でもすぐに体が冷えてくる。暖かいものはそれだけでご馳走である。

本格的な休憩地を高座谷奥の広場と決め、途中、展望岩でしばしの展望を楽しんだのち、魚屋道に戻り、いよいよミステリーコースに突入だ。石の広場を過ぎ、先ず、このあたりでは珍しい水場に立ち寄った。さらに広場へ向かう。案の定、広場は我々が独占を待っていてくれた。ここは、まさに隠れ家的土地である。林の中にぽっかり空いた空地。ここでは冬でもほとんど風がない。

ゆで小豆4缶と餅とでぜんざいを作る。正月が過ぎたといえ、まだ幕の内。やはりぜんざいを食べねば……。山で食べるぜんざいは格別である。しかも、六甲山系にあって、このような隠れ家のような場所で食べるのはなんとも心地良い。

至福の時を終え、いよいよ黒岩に向け出発。高座谷の奥地は迷路。広場から南下したためちよつと迂回してしまっただが、無事、黒岩への道に出た。道標では我々が出てきた方向を「進入禁止」としていた。道標は素人用に設置されているので、我々KU

WVOB 用ではない。



荒地山一帯にはロッククライミングの練習場がいっぱいある。それだけに黒岩への登りもやや急である。水平な岩の上に一本松が立っている。これが黒岩である。絶景の岩だけに高度感もある。松にしがみつくと、平然と岩に座る人、さまざまである。しばし恐怖と展望を楽しんだが、風が吹いてきたのでここを辞し荒地山に向かった。山頂で暫時休憩。リンゴ、コーヒを摂った。

ミステリーコースを経て、よく整備された魚屋道へ戻った。今度は、躊躇したくなるような道に入る。これが知る人ぞ知るゴルフ場に抜けるエスケープルートなのだ。約2分間のワープでゴルフ場内の道にでた。従業員用のトイレを借りたが、清潔でかつ心地良かったとの報告があった。

芦屋ゲートには16:12着、阪急、JRなど各自の電車に合わせるためバスの中で解散した。

## 5. 京都嵐山Pw

・実施日 2012/2/25(土)

・コース

阪急嵐山～登山口～嵐山城址～嵐山～松尾山～登山口～中の島公園～阪急嵐山

・参加者 (16名)

金岩⑤、小川⑥、伊豫K⑧、篠島⑧、伊豫A⑩、島林⑩、高田⑩、藤井N⑩、畔山K⑪、畔山C⑪、加藤T⑪、赤地K⑫、楠屋⑭、赤地K⑭、金井⑮、高村⑮

・報告

「嵐山」。どこかに「嵐が丘」に似た響きがある。心を開放させてくれるどころか、心を暗くさせるような山には行きたくない・・・このような理由によるものだろうかどうかわからないが、嵐山登山案内は豊富ではない。

事実、山に入るとおもしろいものが見つかった。同じ場所にこんなに石柱が建っているところは少なからう。「古都保存」「山(旧営林署の印)」「岩田山」

「松尾・・・」は解読できたが、それ以外にも2本がある。それぞれの目的があって建てられたものであろうが、なにやらこの山における人間模様の複雑さを感じさせるものがある。

案の定、この山行きの集合時は雨模様であった。この時期、雨に濡れるのは避けたい。山に登るかどうかの相談の間、ひそかに止んでいた雨が、一旦決行となり出発した途端に、またシトシトと降ってきた。



駅から登山口はすぐであった。道路からいきなり細い道につながり、すぐに竹林にはさまれた登り坂が続いていた。最近では荒れた竹林が多く見られるが、ここは京都らしく明るい手入れされた竹林であった。しばらく行くと雑木林に変わった。

雑木林のため展望は殆ど利かないのだが、一瞬だけ展望が利く場所があった。渡月橋から嵯峨野のあたりが良く見えた。

嵐山の山頂直前に嵐山城址というのがあって、その展望も良いというので、昼食地にした。嵐山城址への道標はないが分岐を注意して歩くとそれとなくわかる場所だ。木に墨で直接書いたようなへたくそな文字の案内板もあった。

昼食、フカヒレスープが作られ、それほどの雨ではないが、誰かの手によって、シートで雨除けが張られる。ここにはさりげない配慮が満ちている。それだけでも気分的に豊かな食事が出る。

「嵐が丘」の憎しみとは対照的に「嵐山」では相変わらずの笑みが飛び交っていた。

城址から嵐山まではすぐであった。確かに山頂からは展望が利かない。しかし、山頂であることの標識が下がっていた。ここは、今回の山行きの最高峰でもある。やはり記念撮影すべき、ちょうど居合わせた登山客にシャッターを依頼した。人があまりいなかった山中、嵐山の山頂で全員写真に収まることのできたのは実に幸運だった。

山は高き故に貴いのではない。笑みのある人を呼ぶことができる山こそが貴いのである・・・そう思った。

嵐山から少し奥に進み、嵐山の山頂を巻きながら烏ヶ岳に至る道に合流した。そこから道を引き返し、竹林を過ぎ無事下山した。

せつかく来た京都、中の島公園に立ち寄ることにした。京都通の金井さん情報では、ここのトイレはきれいであることを入手していたからだ。

公園では、嵐山山頂までボッカした温かい湯でコーヒが点てられた。菓子もいろいろあった。最後に企画者の挨拶があり解散した。

## 6. 三上山Pw

・実施予定日 2012/3/31(土) 雨天中止

## 7. ポンポン山Pw

・実施日 2012/4/21(土)

・コース

JR向日町駅＝(阪急バス)＝善峯寺～釈迦岳～ポンポン山～本山寺～神峯山寺～神峰山口＝(高槻市営バス)＝JR高槻駅

参加者 (12名)

金岩⑤、小川⑥、篠島⑧、藤井N⑩、島林⑩、畔山K⑪、畔山C⑪、赤地K⑭、宇野K⑮、間所S⑮、間所M⑮、三宅⑮

・報告

雨必至の天気予報であったが、天気が急転し良くなった。そのような中、吉峰寺の門前までバスに乗った。吉峰寺では桜花爛漫、ゆっくりと花見を楽しんだ。最初から実にラッキーな山行きとなった。



吉峰寺からは、釈迦岳に向かった。途中アミガサダケ、カタクリの花を楽しんだ。山頂で記念写真を撮り、今日の最高峰であるポンポン山を目指した。晴天ではあったが、風がやや冷たい。山頂、展望を楽しみながらの昼食とした。高級スープ、金岩さんの1/4サイズながら旨かったロールケーキ、お菓子で元気が出た。温かいスープや新型大中小で意外と長居をしてしまった。

下山は本山寺から神峰山寺へ。善峯寺を始め実に

絵になる寺とかの多い最近のヒットコースだった。

最後は、ちょっとでも早く風呂に入ってビールを飲みたい幹事の一心で、バス停までの道を急いだ。

ゆっくり浸った美人の湯だったが、その効果については、今でも疑問である。

## 8. 三上山Pw (第2次)

・実施日 2012/5/19(土)

・コース

JR野洲駅＝(バス)＝コミセンみかみ～御上神社～登山口～(表登山道)～二越～割石～三上山山頂～花緑公園＝(バス)＝JR野洲駅

・参加者 (15名)

金岩⑤、藤井⑩、藤井N⑩、高田⑩、島林⑩、森川⑪、加藤T⑪、加藤S⑪、畔山K⑪、畔山C⑪、野村⑫、宇野K⑮、宇野A⑮、三宅⑮、間所S⑮

・報告

3月に雨で流れた山。それでも何か気になる山、それが三上山である。標高はさほど高くないのだが、どこから見ても三上山だとわかる山容をしている。

それが、JRの車窓から、琵琶湖の対岸から、ポンポン山のとっぺんからでも見える山。しかも、近江富士と言われるのだから、放置はできない。

JR野洲駅からバスに乗りコミセンみかみで下車。ここからも御上神社への参道がある。御手洗川に沿っての静かな道を行くと、楼門にでた。拝殿など重要文化財が多い。御上神社は由緒があり立派な神社だ。しばらくトイレがないので、ここで済ましておく。



神社の前から登山口の間に広がる田は、戦前の最も天皇制が強かった昭和3年、昭和天皇の即位式に続いて行われる大嘗会に供えるための米を作った悠紀斎田(ユキサイデン)である。今でも、4月に田植え祭りがあるという。三上山の麓にあるだけに、神聖な感じがする田である。

登山口からは階段の急な道が続く。妙見堂跡まで一汗かいた。妙見堂跡、二越で休憩し、割石にでた。割石とは、大きな岩が縦に割れ、その間に人ひとり

がやっと通れるぐらいの隙間があるのだ。稜線の道はまっすぐ割石の中を通っているが、巻き道もあるようだ。我々は迷わず楽しそうな割石の方へ進んだ。しかし、岩の中ですれ違いはできないので、下山者を待つことになった。

ザックを担いだままでは通ることはできない。己の体型を考え、ザックを外し手に持つなどして、無事に割石を攀じ登った。

割石から上部はかなり急な道であった。頭上が明るくなったと思ったら、そこが頂上直下の岩場だった。ここまで来れば着いたのも同然、急に元気が出てきた。



ここからは素晴らしい眺めだ。残念なのは、南西方向にしか展望が開けていないこと。登山客が多いので、昼食をここで摂るのをあきらめ、頂上に向かった。頂上には磐座と奥宮があった。しかし、ここが真の頂上ではない。数メートル先の林の中が頂上である。とにかく昼食を摂る。林の中だから全く展望が利かないのは当然のことである。いろんな場所からこの山が望まれるということは、測量にとって最適な場所だろうに、不思議なことに、この山には三角点がないのである。

それは、三上山が神域であるために頂上付近の伐採が不可であったためかも知れない。山頂にきたという証拠写真を撮って下山となった。下りは登りとは反対方向。ウラジロシダの林を抜け、花緑公園に下りた。東屋で恒例のお茶会、あるザックからは茶碗、茶筌、茶杓、あるザックからはお茶菓子、あるザックからは緋色のシートが出てきた。山帰来の葉や笹の葉が銘々皿に早変わり。実に茶菓子がうまそうに見える。かくして、1時間以上の時間があっという間に過ぎていった。

帰りは、ここからバスで野洲駅まで乗り、駅前解散した。

## 9. 六甲シュラインロードPw

・実施予定日 2012/6/16 (土) 雨天中止

## 10. H24 サンマパーティ

・実施日 2012/9/29(土)～30(日)

・場所 大久保雑草園

・参加者 (24名)

金岩⑤、小川⑥、篠島⑧、畔山K⑩、畔山C⑪、加藤T⑩、加藤S⑩、森川⑩、赤地K⑫、野村⑫、神林⑬、柴田N⑬、上馬⑮、宇野K⑮、宇野A⑮、金井⑮、高村⑮、舟田K⑮、舟田S⑮、間所M⑮、三宅⑮、石地 23、興井 23、坪井 24

・パーティ報告

例年どおり運営委員は早く集まった。

### 第1部 バーベQ

近畿支部代表の金岩さんの挨拶、小川さんの音頭でカンパイ！！金井さんから明石の秋刀魚についての説明があり、早速焼き始める。ビールはもちろん「生ビール」。呑兵衛参加でも会費に不公平がないように、一応 200 円/中ジョッキの自己申告制だ。これなら遠慮なしで飲める。

サンマパーティといいながら、毎年登場するマツタケ。一同小川さんに感謝。焼くだけではいかにももったいない。賢い主婦の手によって松茸がどっさり入ったマツタケご飯に変身、さらに、食べやすいようにおにぎりになっていた。肉やバーベQの食材が一杯あり、こころおきなく食欲の秋を楽しんだ。

### 第2部 お茶会



飲んで食っているうちに、太陽が西へ。この季節、西日は暑い。腹も膨らんできた。ならば、原始食欲の時間から文化の時間に移行しよう。胡坐流、山鹿流の両宗匠、女性運営委員の打ち合わせもおわり、お茶会が始まった。胡坐流というのは、胡坐をかいただく趣旨の気楽なお茶、山鹿流というのは、杣人でも良いということ、つまり、作法にこだわらず楽しくお茶をいただければ良いのだ。ただ、茶碗をぞんざいに扱って割ったり、かじったりしてはならないという作法だけがあるらしい。

### 第3部 活動報告



まず、近畿の若手の石地さん、興井さんの挨拶があった。頼もしい。昨年に引き続き、畔山さん制作の近畿支部のあゆみを上映、各人の山行き報告、赤地さんより中国茶芸の特別実演活動、節ちゃんの篠笛演奏会もあった。もう、世界のあちこちで演奏しているとのこと。演奏しているうちに国際的な衣装も着せられ、なんとなく世界中で奏でていることが納得できた。

#### 第4部 バーベQ、Part2

かくかくしているうちに腹にわずかのすきまが出来、外も涼しくなってきた。集合写真を撮り、まだ食いきっていない食材を食べた。

#### 第5部 日帰り温泉・討論会

夜も更けて来たので、日帰り班は解散となり、女性たちは車2台で日帰り温泉に行った。残った男達は、何かを語っていたような気がするが、記憶にない。

#### 第6部 深夜の個人山行き発表会

第3で発表を忘れた人も居たので、この時間に発表を続けていた。質疑応答もあり、なかなか良かった。

#### 第7部 20重低音演奏会

女性は2階で、男はシュラフで寝ることになった。会話がいつまで続いたのかわからないが、心地良い音曲の中、翌朝は爽やかな目覚めであったとか、なかったとか・・・

#### 第8部 野外朝食

差し入れを含めて、食材は尽きては居ない。また、炭火を熾し、さまざまなもの焼いて食べた。台風の影響が遅く、雨もなく屋外で食べられた。

#### 第9部 中国茶芸 part2

中国茶芸って、朝もやったのかな・・・・・・？ 室内で、スイスのスーパーマーケットで買ったイタリア製のエスプレッソでコーヒーを淹れた。日本と違い、蒸気がやや洩れていたが、あちらでは一向に気にしないのだろうか？

#### 第10部 後片付け

台風が近くまで来ているので、残ったみんなの後片付け、まだ、あまり物はお土産とした。持ち帰る品物はじゃんけんで決めた。最後にゲット品とともに

に記念写真を撮った。

### 11. 油コブシシュラインロードPw

・実施日 2012/10/27(土)

・コース

渦森台～坊主山鞍部～(油コブシ道)～天覧台～六甲山小学校～記念碑台～六甲山ホテル～阪急池～(唐櫃道：シュラインロード)～上唐櫃～神鉄六甲駅

・参加者 (20名)

金岩⑤、小川⑥、伊豫K⑧、黒崎⑧、篠島⑧、伊豫A⑩、島林⑩、高田⑩、畔山K⑪、畔山C⑪、加藤T⑪、加藤S⑪、楠屋⑭、宇野K⑮、宇野A⑮、金井⑮、高村⑮、間所S⑮、間所M⑮、三宅⑮



・報告

市バスの終点、渦森台に17名が集合した。標高300mまで登ってくれて200円とは格安だ。住宅地を歩いて数分で登山口。ここからが登りなので入念な準備体操をした。

この日は表六甲の断層地帯という地形的に楽しい場所を歩くことになる。まず坊主山との鞍部、ここは断層面なので土が柔らかく、よって侵食され鞍部となっただけらしい。

日向は夏のような暑さ。木陰が実に涼しい。急崖と平坦面の交互の地形を歩き、ようやく油コブシの展望台に着いた。油コブシからは気持ちの良い稜線。セザンヌの絵に出てくるような林を抜けた。最後の階段を登ると、神戸市街が眼下に見えた。

無事山上に到着。山上には車で来られるのが六甲山の欠点。山上(天覧台)ではケーブルでやって来た間所夫妻と金井さんが出迎えてくれた。ここで昼食。天覧台で記念撮影。ささやかながら篠島さんの100名山完遂祝いもした。

六甲山上の別荘地帯を抜け、裏六甲にでた。シュラインロードに入る。行者堂までは、ほぼ平坦地がつづき、その後は下りとなる。道のあちこちに石仏が鎮座している。六甲を愛した外国人が、この石仏の道をシュラインロードと呼んだのだ。シュライン

ロードの最後に鳥居だ。ここからは林道と裏六甲ドライブウェイに沿って歩いた。紅葉の始まった裏六甲公園で、大中小をやった。20名の激戦だったので、カステラは限りなく小さくなった。

最後はのんびりとした田舎道を歩き、かくして参加者全員が最終地である神鉄六甲駅に無事辿りつくことができた。

## 12. 五大山Pw (第2次)

・実施予定日 2012/11/17 (土) 雨天中止

## 13. 妙見山Pw

・実施予定日 2012/12/22 (土) 雨天中止

## 14. 交野山Pw



・実施日 2013 1/19(土)

・コース

JR 河内磐船～獅子窟寺～六方辻～くろんど園地：キャンプ場(昼食)～傍示～交野山(休憩)～白旗池(大休憩)～源氏の滝～JR 津田

・参加者 (17名)

金岩⑤、小川⑥、伊豫K⑧、篠島⑧、伊豫A⑩、島林⑩、高田⑩、畔山C⑪、加藤T⑪、加藤S⑪、赤地K⑭、楠屋⑭、宇野K⑮、宇野A⑮、高村⑮、三宅⑮

・報告

獅子窟寺は役の行者が開いたという歴史のある寺、境内から稜線にかけて大きな丸みを帯びた花崗岩の岩がたくさんあった。また、くろんど園地はほどよく手入れされた自然公園、新春で食べすぎの体型にもあまり負荷がなく心地良い歩きができた。

交野山のとっぺんには観音岩という大岩があり、昔の磐座とのこと、ここからは360°の展望が可能であるが、初春霞により眼下の大阪府あたりの町は眺められるが、残念ながら、遠望したい山は見えなかった。正月の不精進を反省。

近くの白旗池で恒例の大中小を行い今年が良い年

となるよう祈った。下山は民話の残る源氏の滝を訪れ、JR 津田駅で解散した。

## 15. 高御位山Pw

・実施日 2013/2/23(土)

・コース

JR 曾根～北池登山口～北山奥山～小高御位山(大休憩)～高御位山～公園分岐～市の池キャンプ場～鹿島神社大鳥居=(神姫バス)=JR 宝殿

・参加者 (13名)

金岩⑤、小川⑥、篠島⑧、畔山K⑪、畔山C⑪、加藤T⑪、加藤S⑪、金井⑮、間所S⑮、間所M⑮、宇野K⑮、宇野A⑮、高村⑮

・報告

高御位山は低山ながら岩山、しかも再三山火事に遭っているのですこぶる展望が良い。しかし、日陰がないので夏の季節は過酷な状況となる。冬から春先が登山の季節だ。

JR 曾根に全員集合、旧西国街道を東に歩き北池登山口へ。準備運動などして上り始めた。いきなり展望が広がった。展望の良さにすぐに休憩したくなる衝動に駆られる。

岩壁を登り切り昼食地点の小高御位山に着いた。小高御位山は、稜線から数分外れているだけに人がほとんど来ない。また、頂上付近が崖であるために随分と高度感がある。この山頂を独占して昼食とした。今回は、粕汁。体を温めてくれた。うまいので2杯3杯とお代わりする者もいた。

小高御位山の鞍部から高御位山までは標高差約150mの1枚岩の登りである。急ではないが緩くもない。しかし、粕汁で酔っぱらった人には辛い登りとなった。めでたいことに全員揃って山頂を踏むことが出来た。



山頂は、やはり人が多かった。ここでもしばし休憩し、西の稜線に入った。下山は市ノ池公園に直接下るルートを取った。この道は急ではあるが、繁みのあるときはさほど感じられなかった坂道が、山火

事で斜面の見通しが良くなったためか、転げ落ちるような角度に見えた。掴まるものがないという恐怖心から、下山には予想以上の時間を要した。

繁みに入ったときホッとしたのは言うまでもない。緊張がほぐれ、いつものメンバーに戻っていた。この山は火山ではないが、展望が利く。ちょうど阿蘇の外輪山をみんなで歩いてきたような満足感が満ちていた。

## 16. 堂山Pw (湖南アルプス)

- ・実施日 2013/3/23 (土)
- ・コース 集合地= (帝産バス) =アルプス登山口～鎧堰堤～堂山(384m)～新免= (帝産バス) = JR 石山駅
- ・参加者 (11名)  
金岩⑤、伊豫K⑧、篠島⑧、伊豫A⑩、高田⑩、藤井K⑩、加藤T⑪、加藤S⑪、楠屋⑭、金井⑮、高村⑮
- ・報告

湖南アルプスがこのような地形になったのは、遙か平城京建設の時にまで遡るようだ。平城京の用材として、この辺りの木材が伐採された。木材は近くの瀬田川に流され、宇治から木津川を遡り、平城京に運ばれたという。

元来、この辺り一帯が風化花崗岩質の山であったがために、表土が流出し、雨のたびに土砂が流され、禿山となったようである。明治以降の石積の堰堤により土砂の流出は幾分収まったが、稜線あたりの景観はいまも花崗岩が剥き出し、故に展望がよい。

堰堤は、明治～昭和初期の石積みの堰堤が多く、またそれによって堰き止められた風化花崗岩の白くて広い河原、稜線の景観など、見るべきものがいっぱいある。それに、かつてはトパーズの一大産地であったとあれば、なおさらである。その最も典型的な山が堂山である。



集合地はJR石山駅、ここからバスに乗る。終点は、その名も「アルプス登山口」なのだ。そこから

広い河原を見ながら約40分で迎不動の登山口に着いた。ここから、谷に入る。谷は、変化に富んでいて、小さな滝もある。1時間弱で鎧堰堤に達した。明治期に積んだ岩で出来た堰堤である。その上に同じく岩で詰まれた昭和期の堰堤がある。階段状なので、登ることも出来そうな堰堤である。

堰堤の上は阿弥陀河原という大きな河原となっている。地理院の地形図ではここが湖になっているが、全部白砂で埋まっている。この不思議な河原で長い昼食を摂った。日差しも暖かく、抹茶もいただいた。実に心地良い空間であった。

いくら心地良くても、ここに長居は出来ない。阿弥陀河原に別れを告げ、山道に入った。約20分で、峨々とした堂山が谷をはさんだ向かいに見えた。背後に琵琶湖も見えている。遠いなど思える堂山を背景に記念写真を撮った。10分後には、その堂山の稜線に立っている我々がいた。風景は雄大だが、それくらいにスケールは小さいのだ。しかし、歩きは北アルプス並だから、往年のアルピニストにとってはうれしい山だ。

春霞ではあったが、堂山西峰からは360°の展望を楽しむことが出来た。例によって、羊羹の大中小で遊び、コーヒーをのんびりと飲み、周りの風景を十分に楽しんだ。

帰りはルートを北に取り、約1時間で新免の新宮神社に着いた。堂山は低山ではあるが、満足感があつた。まるで北アルプスに登ってきたかのような……

## 17. 能勢の妙見山Pw (第2次)

- ・実施日 2013/4/27(土)
- ・コース  
能勢電・妙見口駅～(上杉コース)～山上駐車場～能勢妙見山～三角点～ケーブル山上駅=(ケーブル)=黒川駅～黒川の里(菊炭見学)～妙見口駅
- ・参加者 (17名)  
金岩⑤、小川⑥、篠島⑧、島林⑩、藤井N⑩、藤井K⑩、高田⑩、畔山K⑪、畔山C⑪、赤地K⑭、三宅⑮、宇野K⑮、宇野A⑮、上馬⑮、間所S⑮、間所M⑮、金井⑮
- ・報告

今回の集合場所は、能勢電鉄妙見口駅。ここに登山組16名が集合した。登りは上杉尾根コース。展望の道だ。まずは、上杉尾根の登山口まで歩く。

コースに入るといきなりの急坂で面食らう。ぐんぐん高度を稼いで展望がよくなった。剣尾山がうっすらと、眼下に黒川の里が見えた。ようやく山上の駐車場に着いた。山上で17名全員集合。ガイドの説明を受ける。また、何の靈験を期待してか、神馬に

「願かけ」する者もいた。山頂の寺の門に大阪府と兵庫県の府県境があった。ここにはブナの大木が多い。ブナを抱擁し、ブナの声の聞いたりした。山上で昼食を食い、水琴窟の音色を聞いたりして遊んだ。



帰りは全員ケーブルカーでラクチン下山。下山後、黒川の里に寄り、茶の湯で使う名産の菊炭の炭焼き窯を見学した。

## 18. 比良山Pw

・実施日 2013/5/18(土)

・コース

JR 志賀駅=(バス)=山麓駅\*\* (ロープウェイ) \*\*打見山～木戸峠～比良岳～葛川越～烏谷山～夏川峠～南比良峠～堂満岳稜線～金糞峠～(正面谷)～イン谷口～JR比良駅

・参加者 (10名)

金岩⑤、小川⑥、高水間⑧、伊豫K⑧、伊豫A⑩、藤井N⑩、片田⑪、加藤T⑪、宇野A⑮、間所M⑮

・報告

志賀駅には、全員定刻に到着。標高 300mのゴンドラ乗り場までは行楽シーズンバスで向かった。山麓駅からはロープウェイで一気に 1100mまで登る。数分間でここまで来られるのだから、決して 1000 円は高くない。

打見山山上で、企画者からの今日の説明を受ける。「ここが本日の最高地点だから、概要としては、ここからあとは下るだけ・・・」いかにも近畿支部らしい山行きである。

一般ハイカーは立ち入り禁止となっているスキー上級者コースを下った。そこからは石仏が迎える木戸峠まではすぐであった。

木戸峠からは明るいブナ林の稜線道となる。次は比良岳への登りだ。道の整備状態は非常に良い。また、林の中は草刈りをしているかのように驚くくらいにきれいだった。

比良岳山頂で、アイスキャンデーならぬ、冷凍パイナップルをいただく。

比良岳の大岩を過ぎ葛川峠まで下る。2ピッチで登り返して烏谷(カト)山に到着。汗びっしょりかく

急登だった。三角点で記念撮影。日差しが強い。烏谷山からは荒川峠にまで下り、南比良峠に向かう。途中、ブナ林の中の平坦地で昼食とする。静かで、木陰が心地良い。烏谷山を越えると小灌木の道になる。五葉ツツジの林を歩くが、なかなか花に会えない。今年はツツジ系の不作年ということらしい。



南比良峠からの道は堂満岳を巻くように向かっていた。シャクナゲを期待して途中から堂満岳に向かったが、今年はシャクナゲも不作の年のよう。途中であきらめ、稜線を下り金糞峠に向かった。

いきなり琵琶湖を背景に楽しげな堂満岳の岩の造形があった。この岩を背景に記念撮影。ここでは不作ながらもシャクナゲをゲットできた。

広重もここからの絵を描いたという、ここ金糞峠で今日の稜線歩きは終了した。

いよいよ下山である。金糞峠からのガラガラの下りが待っている。くるぶしを固定するよう靴紐を締めた。北アルプス並みの下りである。ここのイワカガミは実に立派である。白いイワカガミもあった。白い岩に緑が映える谷だ。下るに連れて、道は緩やかになってきた。

途中「かくれ滝」に立ち寄る。なるほど最後の最後まで近づかないと拝むことの出来ない滝である。身も心も洗われる気分になる滝だった。イン谷合からは、琵琶湖側に出来た複合扇状地の原野の中を比良駅まで歩いた。農地が増え比良の里があった。南比良の樹下神社と北比良の天満宮が同じ社叢を共用する歴史的に面白い里なのだ。

## 19. 柳生街道と春日山原生林Pw

・実施日 2013/6/29(土)

・コース

近鉄奈良駅～飛火野～上禰宜の道～滝坂の道～首切地藏～地獄谷～石切峠・峠の茶屋(昼食)～奥山ドライブウェイ(～春日山石窟仏)～若草山入口(～若草山)～月日亭休憩舎～奥村記念館～近鉄奈良駅

・参加者 (16名)

金岩⑤、島林⑩、高田⑩、藤井N⑥、畔山K⑪、畔山C⑪、加藤T⑪、赤地K⑫、野村⑫、赤地K⑬、上馬⑮、宇野K⑮、高村⑮、間所S⑮、間所M⑮、三宅⑮

・報告

集合場所は、近鉄奈良駅地上の行基噴水前。まずすべきは、スパッツを着装しヒル忌避剤を塗ること。

車道をなるべく避け、興福寺の境内へ、北円堂、南円堂などいきなり古都奈良の真っ只中に入りこむ。やや怪しい道を行くと「下の衾宜道」に出た。この道は高畑に住む神官たちが春日大社に向かう通勤道である。鬱蒼とした道、歩くだけで心が洗われる気がした。



高畑の上部の道路から「滝坂の道」が始まる。思いがけない晴天。外界は暑いのだろうが、木陰の谷筋だから涼しい。しかし、休憩するとヒルがどこかに這い上がってきそう。不安と心地良さが錯綜する道でもある。寝仏、夕日観音、朝日観音。ここは磨崖仏の道でもある。ヒルの坂道を喘ぎながら登っていく。ようやく首切地蔵の休憩舎に着いた。

ベンチにヒルがいないことを確認。その安全地帯にザックを置き各自がヒルを点検。何人かの人を取り付かされている。ここのはマッチ棒ほどの大きさのヒルである。「ヒル下がりジョニー」の効果ありで、ほとんどが靴で止まっていた。ここでさらにジョニー効果を高めるべく噴射した。

首切地蔵から地獄谷道に進んだ。しばらくして石窟仏に出た。確かに古そうな仏達である。わずかに彩色も感じられる。凝灰岩をくりぬいたという割には保存状態がよい。柵のない昔は誰でも入れただろうに、イタズラされた風もあまりない。一つの疑問が沸いた。この保存状態の良い戸外の仏たちは本当に奈良時代の作なのか。

石切峠まであと数10m登れば良いと思っていたが、道はどんどん下り坂になってきた。さりとて急峻な谷でもない。またしても疑問が、何故ここが地獄谷

と呼ばれるのか・・・。

「昔、ここは庶民の風葬とか鳥葬の場だったらしいよ・・・」

博学の直樹さんが、そつと教えてくれた。

当時の大都会奈良、庶民が親族の亡骸を担ぎ能登川を遡り、稜線を越えたここ地獄谷に置いてくる。奈良の大仏造営の際にも、大仏を金色にするために、金を水銀に溶かし、それを大仏に塗布し、それを蒸し焼きにして金メッキにする。多くの人が水銀中毒で死んだだろうという話を何かで読んだ気がする。ちょっと不気味な場所。奈良時代に作られた慰霊の石窟仏が保存されてきたのも、そのような場所だからこそ可能だったのだ・・・。謎が氷解の如く解けた気がした。

道は一旦谷まで下り、橋を渡り、それから天上に向かって登り始めた。この谷がジメジメし、ヒルが血を狙っているのも合点がいった。暑い、しかも登りが続いた。座ることもできなくひたすら歩いた。早く地獄から脱出せねば・・・石切峠まで登った。無事に地獄谷から脱出できたのだ。ふう・・・、安堵感が身体を駆け巡った。石切峠から峠の茶屋へは安寧な平坦道で指呼の距離だった。

峠の茶屋は、思っていたよりも大きな造りであった。ゆっくりと靴を脱ぎヒルの有無を確認した。驚くことに献血者は誰もいなかった。が、ズボンの裾に何匹か住まわせていた人もあった。スパッツ着用者やズボンの裾を靴下に入れている人は大丈夫だった。



下りは、春日山原生林の中の自動車道を下るだけ、途中、春日山の石窟仏に立ち寄った。今回の唯一の展望地、若草山。奈良平野とそれを取り囲む山々が見えた。暑い！！

いよいよ下山。東大寺の門前からは、人が溢れていた。近鉄奈良駅で一旦解散、汗流しのために大西湯に浸かった。実にレトロな銭湯で心身ともに癒された。

(文責 加藤 忠好)

## 東海支部の1年

24期 坪井 陽典

東海支部の昨年 11 月からの活動は、次の通りです。

平成 24 年

12 月 鳩吹き山PW 忘年会

平成 25 年

3 月 くらがり溪谷PW

5 月 藤原岳

8 月 暑気払い

10 月 古代東山道を行くPW (中止)

11 月 山本山から賤が岳PW

昨年 12 月 1 日の鳩吹き山PWは、5 期の久島さん夫妻の計画です。

鳩吹き山は、久島さんの地元岐阜県可児(かに)市にある標高 313m の山です。地元の人、正月には初日の出を見るために登るという地元になじみのある山です。

PW は、異なる地点から出発し、途中で合流し、頂上を目指すコースでした。

ハードコース(A)とソフトコース(B)で、当初参加を申し出た人は全員、ハードなコースを選んでおりました。しかし軟弱者の私は、ただ一人ソフトなコースを選んだのです。そしたら、それを見た某氏も突然ソフトなコースに変更をされたのでした。

行ってみてわかったのですが、ハードなコースとソフトなコースではなく、超ハードなコースと普通のハードなコースでありました。ちょうど紅葉の時期で、超ハードコースの寂光院、下山口の氷場(全員一緒)の紅葉はきれいでした。

参加者は、久島俊也さん(5期)さん、久島洋子さん(6期)、森川さん(11期)、野村さん(12期)、佐野さん(15期)、川端さん(16期)、渡邊さん(17期)、竹本さん(21期)ご夫妻、坪井です。

コースは、  
A ; 名鉄犬山遊園駅→寂光院→奥の院→継尾山→石原口

B ; 名鉄善師野駅出発→大洞池→石原口  
この石原口付近で両グループが合流し、西山中間点鉄塔(昼食)→西山分岐点→北廻りコース→西山展望台→鳩吹き山頂へ

その後氷場コースと小天神コースに別れ、氷場で再度合流し、山行自体は無事終了です。

そのあとは、湯の華アイランドで、ゆっくりと湯につかり、ちょっと食事をして名鉄西可児駅で解散をしました。

この山行は、1年経った今年 11 月の賤が岳PWでも話題に出るほどのハードなものでした(笑)。

正直言って「鳩吹き山? 標高 300m ちょっとじゃないの。余裕だな」などと考えておりました。しかしコースは、アップダウンがきつく、西山展望台で、「あそこがピークだ」と言われたときの「えっ?」と思った(というか、1年経った今でも生々しくその光景が焼き付いているのですが)のでした。その頂上は、はるか遠くに見え、そこに至るには、一度けっこうな標高を下り、登り返すというものでした。

そうしたわけで、頂上に立ったときの達成感、は東海支部で今まで行った山行の中で、もっとも充実をしました。

このコースで見えた山ですが、写真にありますように若干雲がかかっています。中央アルプスが、そして東海支部でこれまで登った笠置山、白草山などもきれいに見えました。けっこう揉めたのは、「あれは白山ではないか」という「白山見えたか論争」です。みんな大人なので、そんなことでホントは揉めたりはしていませんが、あれはどっちなんだろうと今でも考えています。

またすぐ眼下を流れる木曾川の光景も私には忘れられない風景でした。

12 月冒頭の山行でしたが、寒くもなく、天気もよくて景色がすばらしいPWでした。

短いコースでしたら、1時間もあれば頂上に行けます。身近な山としておすすめしたい山です。

久島さんご夫妻ありがとうございました。

12月は忘年会も行いました。

だいたい、代表の川端さんと事務局の私が、ただのヨッパライですので、「東海支部で酒も飲まずに年を越せるか」という勢いで名古屋市市内にて12月に行いました。

参加者は、4期 森島稔さん、5期・6期 久島さんご夫妻、8期 中野謙一さん、9期 白井勇さん、11期 窪田安英さん、11期 石田清久さん、12期 野村益巳さん、13期 神林博さん、15期 祖父江直久さん、17期 渡邊和文さん、17期小島敬さん、21期 加藤万里子さん、23期 窪川淳一さんと坪井です。川端代表は所用のため欠席でした。

また当初参加予定だった30期代（30期ではない）のI君は、「忘れてました」などという（笑）ことで、来ませんでした。

I君へ、君は忘れていても私は覚えていますので、一つ貸しにしておきます。

この参加メンバーの中に、11期の石田さんもいらっしやいます。

残念ながら石田さんは、今年の10月7日にお亡くなりになりました。石田さんは、山行には参加はされませんでした。昨年4月の東海支部の設立総会に始まり、下での会合にはすべて出席をしていただいていたいました。

死は、誰もが受け入れなければならないことではありますが、私としてはお知り合いになれたばかりでしたので大変残念に感じております。ご冥福をお祈りするばかりです。

平成25年になり、1発目の山行が、3月31日に私が計画をしたくらがり溪谷PWです。

自分で言うのも何ですが、このPWは、東海支部の黒歴史です。できればなかったことにしたいが、そういうわけにもいかないので、書いておきます。

どしゃ降り溪谷PWでした。

前日行こうかどうかどうしようか悩んだのですが、天気予報で「くもり。気が向いたら雨」とかだったので、「とりあえず行ってみましょう」と出かけたのでした。

私が道連れにしてしまった参加者の方は、中

野さん（8期）、祖父江さん（15期）、佐野さん（15期）、川端さん（16期）、吉田憲司さん（17期）、渡邊さん（17期）、竹本さん（21期）ご夫妻と娘さん（大学生）、廣田君（25期）と坪井です。

コースは単純で、愛知県岡崎市にあるくらがり溪谷バス停からどんどん南に進み、本宮山（789m）に至り、最後は本宮の湯（天然温泉）でのんびりする、です。

で、どうだったかということ、最初の1ピッチ目の休憩地点（さいわい屋根のある休憩所でした）で、どうだ参ったかと言わんばかりにメチャクチャ雨が降ってきて、そこでみなさんと話したのが「帰りましょうか」でした・・・。

しばらくしたら雨が小やみになってきたので、カッパを着たまま登り続けました。頂上に着き、これも屋根のある休憩所で昼食をとっているときに、またどしゃ降りになり、救いはどしゃ降りがいつも屋根のある休憩所にいるときだったということです。頂上で、当然景色などは何も見えず、ほんの数メートル先も、なんか、もやっているよね、という有様でした。

参加された方、ほんとに申し訳ないです。

お風呂がなかなかよかったので、最後に救われた気持ちでいます。

5月の藤原岳は、川端さんの原稿をご覧ください。

8月の暑気払いです。何も考えずに場所をとり、当日、「あれ？」と思った次第です。

そう、その場所は、昨年の1月に東海支部を作るということで、初めてみなさんに集まっていた店でした。そのときは、ほとんど知らない人、それも先輩ばかりでしたので、私もおそろおそろの気持ちがあったのでした。あれから1年半も経ち（当時）、もうみなさん先輩も後輩もなく「一社会人」同士で接していただけますので、そこには大変感謝をしています。

参加された方は、森島さん（4期）、白井さん（9期）、窪田さん（11期）、岩田さん（13期）、川端さん（16期）、小島敬さん（17期）、小島幸子さん（17期）、渡邊さん（17期）、竹本

さん(21期)、安井さん(22期)、窪川さん(23期)、坪井です。

10月の古代東山道に行くPWは、台風27号のため中止になりました。計画を立てたのが、この人以上に完璧な計画を立てる人はいないという小島さんでしたので、とても残念でした。

また来年、出していただけたらと思っておりますので、よろしく願いいたします。

11月の山本山から賤ヶ岳PWは、渡邊さんの原稿をご覧ください。

## KUWV 東海支部藤原岳 PW

16期 川端 俊朗

平成25年度の第2回PWは、5月26日(日)、三重県鈴鹿山系の藤原岳(1144m)で行いました。石灰岩でできたこの山は、東南側に小野田セメントの採石場があり、名古屋市側から近づくと荒々しい山肌が特徴的です。地元では「花の山」として親しまれており、特に春先はカタクリ、フクジュソウ、馬酔木、の花が美しく、多くの登山者が訪れる山です。名古屋からは電車で1時間20分ぐらいのアクセスの良さも魅力です。参加者は久島さんご夫妻(5・6期)、野村さん(11期)、森川さん(11期)、渡邊さん(17期)、竹本さん(21期)と川端の7名でした。

花の時期には少し遅れた日程でしたが、初夏を思わせる好天のせいもあり、三岐鉄道終点の西藤原駅には多くの登山者が詰めかけていました。駅から歩いて5分ほどで登山口につきます。別ルートから登られる予定の森川さんを除いた6名で、9:00にスタート、まずは藤原山荘を目指します。登山口は標高160m、目指す山荘は1090m、実に1000m弱の見上げるような登りですが、登山道はなだらかで歩きやすく、よく整備されており、年配者(我々も含めて)から子供まで気軽に山歩きを楽しめるルートです。8合目付近までは灌木林の中のジグザグ道をただひたすら登りますが、いつも通りお元気な久島氏がトップのせいかな順調なペースで高

度を稼ぎます。

足元に咲く可憐な山野草に励まされ、お花の勉強をしながらの山歩きも楽しいものです。8合目を過ぎると視界が開け、眼下のふもとの町や、遠くは名古屋市のビル群を眺められます。涼しい風が吹き抜け、メンバーの足にも元気が戻ってきました。登り始めて2時間半で藤原山荘に到着、山荘前の広場で昼食をとりました。登りは急な山道でしたが、山頂部はなだらかに開け、鈴鹿山系の山並みが見渡せます。昼食後、皆さんは空身で頂上を往復、小生は荷物の番をするとの名目でお昼寝と決め込みました。(実は1か月前の偵察で頂上は征服済)

腹も膨れ、のどかな日差しの下、リュックを枕にうたた寝をしていると、突然、頭の上で「おい、川端」との声。別ルートで山荘にたどり着いた森川氏のお叱りに、現役時代を思い出しました。その後、山頂から帰ったメンバーと山荘周辺を散策しました。この時期、様々な種類のエビネの群落があちこちに見られ、野村・森川の両カメラ小僧のはしゃぐこと、このままここで泊まるのではないかと思うほど。後ろ髪をひかれる思いで13:00頃下山を開始しました。その後も順調に歩き、14:15頃には無事に下山。皆で感謝を込めて登山口のお宮さんでお礼の参拝をいたしました。

この山の本当の見頃は4月上旬。まだ山頂部に残雪が残るころのことです。秋の紅葉の頃もよさそうです。また、季節をずらして訪れたい山です。

## 東海支部 山本山～賤ヶ岳 PW

17期 渡邊 和文

日 程：2103年11月16日(土)

メンバー：L.竹本(21期)、森川(11期)、佐野(15期)、坪井(24期)、渡邊(17期)

前日の雨も上がりすっきりと晴れた朝7時30分、JR春日井駅前に集合。リーダー竹本さんの愛車で出発。春日井ICから名神、北陸道を進み、木之本ICを降りる。9時に余呉駅到着。

余呉駅ホームから見える余呉湖には雲がかかり、湖面と周囲の山の稜線が姿を見せるちょっと幻想的な風景。電車に乗り、河毛駅に行く。駅前でコミュニティバスに乗り、山本山登山口に向かう。バスは定員 9 名。既に琵琶湖水鳥・湿地センターに行く 5 名が乗車。我々は全員乗ることができず、2 名はタクシーで向かうことになった。バスは山本山を眺めながら湖北町をぐるりと巡り、30 分かけて登山口に到着。なかなか来なかったというタクシーの到着を待ち、10 時 17 分出発。

登山口の宇賀神社で山行の無事を祈願して、急坂を登り始める。標高差 200m の登りは5月の藤原岳以来山行をしていない身にゆえ、息が切れる。30 分で山本山頂上(324m)に到着。竹生島が眼下に眺められる。かつて山本山城が築かれていて、本丸、二の丸跡の立札がある。登山道はよく整備されていて迷うこともない歩きやすい道だが、あちこちにイノシシが掘り返した跡があり、防獣柵が設けられている。ここから先は琵琶湖東岸を南北に連なる尾根を登り降りして賤ヶ岳に向かう。30 分程で片山トンネルの上部の峠に着く。ここは明治から昭和 37 年まで、西側の片山地区の子供たちが 2km ほど先の古保利小学校まで通学した峠でその苦労を偲ぶ説明板がある。

続いて尾根には古保利古墳群跡が現れる。尾根の小ピークにしか見えないが前方後円墳やその他の形の古墳が数多く残っている。道の両側には赤や黄色に色づき始めた広葉樹、杉や檜の林が続く。所どころ木々の間から琵琶湖や高月町の景色が眺められる。

出発から 2 時間。西野の集落を見晴らす道端で昼食。晩秋の陽ざしが心地よい。佐野亭のシナチク入りラーメンと茶房森川のコーヒーをありがたくいただく。満腹を抱えながら緩やかな登りを進み、1 時間で 360m の三角点に到着。下って行き、賤ヶ岳隧道手前で森川さんがセンブリの花を見つけ撮影。ここでちょっと休憩。ばて気味の私にはうれしいセンブリ。

目の前に賤ヶ岳が立ちのぼって見える。残

り少ない力を出して登る。遅れる私を坪井さんが立ち止って待ってくれる。優しさが身に沁みる。30 分足らずでリフト終点に到着。多くの観光客が現れる。竹本さんが「リフトで降りてもいいですよ」とささやく。ここまで来てそれはできない。琵琶湖の輝く湖面や逆光の中に重なる湖北の山並み楽しむ。眺めはコース中で最高。15 分ほど登って賤ヶ岳山頂(421m)に 14 時 15 分到着。陽ざしはあるものの少し風が出てきて寒くなってきた。記念撮影をして、余呉駅に向かって下る。



竹本・森川・坪井・佐野・渡邊

途中、「自分の墓の参考にしたい」という某氏の意向で賤ヶ岳の合戦で亡くなった中川清秀の墓に寄る。樹間の道を下り、16 時 10 分余呉駅到着。

6 時間、2 万 2 千歩の山行。標高は低いもののさまざまな樹林に囲まれた歩きやすい尾根道で適度なアップダウンと距離がある良いコース。

車で長浜市の鶏足寺近くの温泉宿「己高庵(ここうあん)」に移動して汗を流し、露天風呂を楽しむ。続いて長浜市内のレストランで夕食をとる。道路交通法の 50 km/時を超える速度超過違反は大変な結果に至るといって有益な話などで盛り上がった。

渋滞の解消した名神高速を順調に走り、20 時 30 分春日井駅前に戻り解散。

晩秋の充実した PW を無事終えることができ、メンバーに感謝感謝。

## 12 期 野村 益巳

(はじめに)

今年も恒例となった野沢温泉スキー合宿(2/16, 17)に参加した。

いつもながらの楽しい宴も終え、そろそろ帰り支度を考えねばと思う矢先に、幹事の青柳さんから、“やまざと”の原稿依頼を受ける。正直“困った”である。でも、さして断る理由もないし、引き受けてしまった。そうは言ってもずぼらな性格の私としては、直ぐに書き出せない。“まあ、3月に入ったら考えようか”と得意の思考停止状態に入った。

その間、とんでもない事態(3月に肺癌手術で部分切除状態が進行していること)もつゆ知らず。そのことは、後述するとして、結局10月末になるまで、ほったらかして、スキー合宿の記憶は、完全に霞の彼方に行ってしまう、文は、私の個人的な想いや時には空想を交えたものになってしまいそうである。しかしながら、今後もこの楽しい合宿に参加するには、何としてもこのノルマを達成しなければと。何はともあれ、そんな気持ちにさせる程の楽しい合宿の紹介をしたい。

では、まずはこんな言い訳で少し肩の荷を軽くしてスタートです。

## 1. 2月15日(金)(前夜祭)

このスキー合宿は、地理的な関係もあるのか、関東、北陸のメンバーが主体ですので、東海支部も発足したこともあり、私の行動記録を書きとめて、東海支部の皆様の参加の一助にでも成れば幸いです。

さて、今回の合宿も名古屋発野沢温泉行(往復10,000円ポッキリ)スキーバス利用です。

今年は例年と違い13期の柴田(以後S氏)さんと一緒です。実は今年はスキーに少し力が入り、S氏とは2月初めに事前特訓を岐阜のメイハウススキー場で済ませています。そして合宿から帰って、御岳チャオにて復習をする計画です。

その折、野沢への足についての話があり、“スキーバスで行けば簡単”と調子よく話しておりました。それが大きな落とし穴でした。

昨年は各地で、ツアーバスの事故が多発して社会問題となり、スキー宿とのセット販売のお客さんの送迎の形となり、「バスのみはお断り」との連絡を受け、大慌てでした。その後、Sさんの純朴そうでも粘りある交渉力により復活出来ました。感謝!です。(実際は、そんな単純ではなかったのですが(笑)。)

名鉄バスセンター22:40発です。連絡事項が済み次第消灯です。消灯前にコンビニで買った睡眠薬(酒)を飲みました。いくらリクライニングと言っても寝られないし、2、3時間位毎のトイレ休憩もあり、微睡む程度でした。カーテンの隙間から雪が見え出すと外の景色が気になり出します。

7時頃には戸狩スキー場などで、乗客は順次降りて行きます。結局、野沢温泉には我々2名のみが残り、8時頃に着きました。

村営中尾駐車場からは、一応先達として先を歩きました。まあ、なんとか間違えず“やまざと”に着けた。(何とか体面が保てた)

朝食を頼んでいたが、“まだ間に合う”と小声で訊けば、“大丈夫です”の返事。さっそく野沢菜食べ放題の朝食にあり付いて、思わずお替りを頂いた。まだ部屋も空いていないので、脱衣所で着替えを済ませて、ゆっくり準備をしてもリフト乗り場には、10時前には着きました。(やまざとは、ゲレンデが一番近くて便利。)

私は、帽子を取れば「シニア」疑いなしですが、Sさんは免許証提示。不便なもんだ!(笑)このリフト券を買うには、ちょっとコツがいる。下表が料金表です。(円)

	おとな	シニア
1日	4,600	3,500
1.5日	7,500	5,000
2日	8,500	6,000
午前券	3,500	3,000
午後券	3,500	3,000

我々(シニア)の場合、日曜日の午前中までですので、今日は1日券、明日1.5日券を購入します。これが、「おとな」の場合は、2日券と半日券が

100 円お得です。更に、例えばシニアが午後到着して翌日の昼まで滑る人が、半日券 (3,000) を買うと最悪です。1 日券を買うのがベストです。この場合 1.5 日券 (5,000) の方を買った方がまだマシ (1000 円得) のようです。

そんな、頭の体操などして、長坂連絡ペアリフトで長坂ゴンドラリフト乗り場へ向かいます。私の様に関西のローカルスキー場しか知らない者にとって、野沢スキー場は本当に馬鹿でかいです。

S 氏は、野沢が初めてなので、取り敢えず野沢の最高峰の毛無山 (1,650m) 山頂まで登ります。

やまびこ A を一度滑って、集合場所のレストハウス「湯の峰」へ向かいます。我々が一番乗りの様で、取り敢えず 1 テーブル程確保。その内に、三々五々集まって来られます。取り敢えず缶ビールとカレーで落ち着いていると俄かに騒がしい集団が登場です。ヘルメットの上にカメラを付けた保田氏と殿と呼ばれる Y 氏の御一行様です。保田氏が開口一番「ハイ、三択問題です」

今、怪事件が発生しました。

- ①ヘルメットを被った保田氏を、皆が分からなかった。
- ②青柳氏が、スキー板をまた盗まれた。
- ③Y氏が、スキー靴の左右を間違えたまま滑った。

「①②③のどれ？」でしょうか。

なんと③です。皆さん、耳を疑い、啞然です。皆さん、異口同音に“そんなの無理”です。多くの疑問としては、

- ・履く時に、気が付くし、第一痛くて履けないでしょう。
- ・幾らなんでも、バックル締める時に気づくでしょ。内側に締めるのも大変だ。
- ・例え、履けても滑られないよ。

でも、殿は見事諸課題をクリアして長坂連絡リフト経由でゴンドラリフト駅まで滑り降りたそうです。そんな話題で盛り上がりながら、2013 年のスキー合宿が始まりました。

午後からは、取り敢えずやまびこゲレンデに向かいました。少し滑るが、ガスも出てきたので、すぐに休憩です。結局、スカイラインを下りて宿に帰ることとなりました。“今年初めてのスカイラインを滑

り降りる” “大丈夫かな”と内思いつつ滑り出しました。

今年は、事前特訓もあり、事なきを得ました。S 氏は、プラスのスキー教室特訓の甲斐もあり、スイスイと下りて行きます。初日とあって、皆さん早目に“カモシカ”や“タヌキ”コースで柄沢ゲレンデへと下りて行かれました。

結局、最後まで下ったのは、上級者の保田氏、青柳氏と無謀なる我々計 4 名でした。ウサギさんコースを下り柄沢ゲレンデ経由で帰ります。



(毛無山頂上、妙高)

宿に帰れば、ストーブの上に自家製の甘酒が用意されています。夕食までに時間があります。野沢温泉の名物外湯に入って来ましょう。夕食は、地元食材を使った会席料理です。今晚は前夜祭なので、乾杯の後、簡単な自己紹介後は歓談です。スキー合宿常連の方も多く、直ぐに打ち解けます。[私の場合、記録 DVD を見て、打ち解け (馴れ馴れし) 過ぎでした (猛省)]。そんな中、13 期の山西(旧姓関) 夫妻が登場で、さらに盛り上がりました。

そして、夕食が終われば、第二弾は玄関二階の広間(今回は外人さんの先約で、何時もの部屋は不可)で前夜祭です。私の場合、スキー合宿の魅力は、スキーよりこちらに軍配が上がります。各地の銘酒が、コタツの上に並びます。明日の、報告会の映写準備方々、保田氏、青柳氏、小山氏 (11 期/今回不参加) の皆さんで行かれた白馬での事前練習の様子を撮った DVD 鑑賞です。イメージトレーニングに役立ちます。私を含む一部の人は、体の中からのイメージトレーニングに余念がありませんでした。その間、いろいろ質疑応答があり、どんな流れでそうなったか忘れましたが、自己紹介やら“私の主張” 的展開となり、いかにもワン

ゲル風談義に花が咲きました。

このような会話は、今となっては決して他では出来ない、当スキー合宿の魅力(?)の一つと思っています。

一区切りついた所で、前夜祭はお開きです。ただし、有志数名は、何を話したか忘れるほどに話が弾みます。そして飲むほどに、酔う程に盛り上がります。(ただ単に、酒飲みの愚だ話?) そうして何時しか眠りに入って行きます。

## 2. 2月16日(土)(合宿初日)

朝です。外は昨夜来の雪で、車の屋根には40cm程の新雪が積もっています。まだ小雪がちらちらしています。

7時半から朝食です。干物塩焼きまで付いてボリュームもあり、美味しいです。日頃の朝食と違い、ご飯のお替りもしました。

1.5日券を買って長坂連絡ペアリフトに乗り込みます。保田さんの判断で、今日は取り敢えず新雪のスカイラインを下ります。なかなか快適な滑降でした、続けてもう1本滑ります。天候がイマイチな(ガスっている)ので、やまびこゲレンデで少し遊んで、昼食です。今日は缶ビールと牛丼です。(若い頃は昼食時にビールを飲むなんて、危なくて不謹慎な大人達だと思っていたのに)“今日もビールが美味しい!”。

そんなこんなしていると金沢組(辰野さん、舟田さん)の登場です。午後は、天候の回復も期待できないので長坂ゲレンデで滑ります。数本滑って、主力の部隊は宿に帰ります。我々を含む一部の人は居残り特訓です。私はS氏がスキー教室で教わった技の習得に励みます。企業秘密ですが“ターン! ターン!”と掛け声掛けて回ります。開眼しました!(笑) そんなこんなして、しばらく遊んで帰ります。

宿に着けば、ストーブと甘酒があります。その横には、0期の田村御大がいらっしゃいます。矢張り存在感がありますね。スキー合宿の魅力のひとつに、このパワー溢れる人達に会えることがあります。

今晚は合宿のメインイベントの夜の宴です。その前に時間もないので、宿のお風呂に(温泉です)

入りましょう。

夕食は食堂ですので、あまり騒ぐのも問題ありですが、取り敢えず幹事の青柳さんの音頭で乾杯です。席の近場の人達とそれぞれ歓談です。それでもそこはワングル同窓の身です、通じるものがあり、直ぐに打ち解け、旧知の如く会話が続けるのも素晴らしい。

さあ、スキー合宿恒例の夜の宴が始まります。まずは、各人の自己紹介方々近況報告です。ここでの内容は、一括して後程紹介するとして、報告が終わると各地の銘菓や銘酒を舟田さんのお茶と共に頂きます。多忙につき4期の佐藤さんからも後半は援軍としてお点前を頂きました。引き続き舟田さんの篠笛演奏が始まります。更に、映像による近況・活動報告と続きます。題目を紹介すると、

11期 青柳氏「武蔵野の野鳥」

13期 柴田氏「柴田茂樹の優雅な生活」

15期 舟田氏「スイスアルプス・トレッキング」

9期 山中氏「ニュージーランド・トレッキング」引き続き、今回の目玉となった20期 松下さんのシャンソンでした。絶品です。そして最後は、ワングル唱歌の合唱です。まずは、“四季の歌”そして“ふるさと”で締め括りの筈でした。しかし、0期 田村さんの存在は偉大です。例の寮歌祭の羽織・鉢巻きで“北の都”を先導します。

“~自由のために死する~”

“~名もなき道を行くなかれ~”

と大合唱で盛り上がり終了です。とは言っても、これで終わらないのがワングル流です。ここに集う多くの皆さんは、全共闘時代に育った人も多く、お酒も入れば、議論にも熱が入ります。議題も大きく日本の将来を憂い、天皇制や如何に、身近な問題では“俺の年金どうなるの?”まで広範囲です。そして最後には話も発散して、夜のしじまに消えて行きました。「おやすみなさい」

## 3. 2月17日(土)(合宿最終日)

今日は合宿最終日です。朝の食事が終われば、皆さんの思いは、既に家路に向かいます。

すぐに帰る人、一滑りして帰る人もいます。

そして帰る地も、遠くは四国に始まり東北、関東、東海、近畿、北陸そして地元長野と様々です。玄関の広間で集合写真を撮りましょう。さあ、皆さんそれぞれの行動開始です。一滑り組は、皆さんに見送られゲレンデに出発です。

今日は合宿の仕上げの日です。やはり毛無山頂まで行きましょう。曇っていた空も最後のやまびこフォーリフトに乗る頃には、晴れてきました。皮肉なことに山頂ではピーカンの晴れです。しばらく山頂直下のやまびこAゲレンデで遊びます。やまびこゲレンデが混んで来ました。“湯ノ峰ゲレンデが空いています”の案内放送がありました。Eコース経由で向かいましょう。湯ノ峰ゲレンデで再度、皆さんと一緒に楽しみます、そろそろ帰りのバス時刻が気になります。我々2名の名古屋組は下山です。「また来年」と別れを告げて、ゴンドラ中間駅から登り反してスカイライン経由で帰ります。宿に帰り着けば、無人の玄関の脇のストーブが赤々と出迎えてくれました。



(野沢 13 民宿 1 ストーブ)

楽しかった‘13 スキー合宿も終了です。また来年を楽しみにいたしましょう。

#### 4. 参加メンバー

今回の参加者は、0 期から 20 期の老々男女 20 名の方々に何れ劣らずユニークで魅力溢れる皆様でした。

0 期 田村氏は、スキーをしなくてもこの合宿の顔であり、なくてはならない存在です。いつものあの寮歌祭用法被を着れば天下無敵の存在で、流ちょうな会津訛のドイツ語で語り出せば完璧です。

4 期 佐藤氏、いまだに鉄人マラソンに参加の強者で、KUWV の役ノ行者的存在と言えます。

7 期 村田女史、抜群の行動力を持った才媛で、いつも報告会では驚かされます。今回も日本の伝統文化の神髄を極めんと、某大学に博士論文を提出されたとか、その探究心の旺盛さには頭が下がります。

8 期 野村(孝)氏、未だに現役女子大の先生としてご活躍です。若き女性の扱いはお手の物のようです。その手の話はこっそり伝授して頂けるとか。

9 期 吉田(幸)氏、はるばる滋賀の地から参加され、甲賀の里に近いのか、スキー場では、時々得意の雲隠れをされるそうです。

9 期 伊藤(俊)氏、昨年からスキー復帰で往年の滑降も近しです。なんでも夏場には、ストックをクラブに持ち替え芝の上で筋トレに励んでいらしゃるとか。

9 期 山中氏、その天真爛漫さから“殿”と呼ばれ、供を従えての大名滑降がお似合です。でも流石殿です。多分 KUWV で最初に百名山を達成され、また世界各地の名所を漫遊される優雅な一面もお持ちです。

9 期 保田氏、スキーの技術は KUWV OB、NO. 1 です。今回もヘルメットにカメラを付けて記録担当の重責を全うされました。

10 期 吉野氏、一見慎重そう。でも、やる時にはやるタイプです。今はお父様の介護にお忙しいようです。本領発揮は、今暫し。

11 期 青柳氏、本スキー合宿の幹事長です。毎度いろいろお世話になります。今回はスキー盗難に遭われ、その顛末と盗難スキーに対する愛着を大いに語られ、且つ盗難回避の方策(ワイヤーロック)と対処方(傷害保険のオプション・スキー盗難保険特約加入)を教授頂きました。

11 期 高田(和)氏、四国から態々例年参加されています。往年の名スキーヤーですが、アキレス腱裂傷後はリハビリに努められています。聞くところによれば、ゴルフのシーズンオフ用にスキーで調整されているとか。

11 期 上村氏、この期の皆さんはスキーの上手な人が多い中、上位ランクです。勉強家で、定年後は中国語に力を入れておられるとか。

12 期 宮島氏、唯一の地元長野からの参加です。昨年までは親御様の介護でご苦労されてきました。そんな中、百名山にもチャレンジ中のようです。

12 期 野村、筆者です。実は、この合宿前に市の健康診断を受け、検診結果報告を直後受ける段取りでした。この X 線検査で、肺に異常の疑いありでした。その後 MRI から PET 検査、そうして 3 月初めには入院検査、肺の部分切除、3 月末退院。あれよあれよと言っている間の 1 ヶ月でした。結果は、稀にみる小さな内に発見され、癌摘出手術後は、抗がん剤治療やら放射線治療は一切なく、退院と同時に花散策に出掛けるまでに回復出来ました。

教訓：健康診断は、こまめに受けましょう！

：癌は早期発見、早期治療！

(肺癌の 5 年生存率 0%)

13 期 柴田 (茂) 氏、今年からスキー復活です。スキー教室にも通い本格派です。来年以降が楽しみです。DVD にあったように揖斐の別荘は大変魅力満点です。

13 期 辰野氏、スキーは金沢組のエースです。日頃から沈着冷静なのに、今回の合宿開催日を 1 週間程間違え、皆さんから冷やかされておられました。おかしいな。

13 期 山西夫妻、息の合ったおしどりご夫婦です。山西女史は一見豪快な感じがしますがスキー場にはヘルメット姿で登場される辺りに、職業柄、準備万端抜かりなしです。

15 期 舟田女史、もう説明するに及びませんが、スキー合宿にはなくてはならぬ存在です。今回も和服姿でのお点前、篠笛演奏、そして DVD 「スイスアルプス・トレッキング」と、次々と、いとも簡単こなしていく辺り、ワンゲル OG の皆さんは何方も偉大です。

20 期 松下氏、今回はシャンソンデビューです。音楽はとんとわからぬ身ですが、琴線に触れる歌でした。もっとも飲み過ぎていましたが。あの田村御大をして「一番会いたかった人」と言わしめる辺り、大物の片鱗がキラリと光る好男子です。

以上、本当に魅力溢れる人達ばかりでした。

## (後記)

何とか、書き終えた。

読み返せば、だらだらと書いたものだ。今の心境は「ある意味、内容なんてどうでも良い、ノルマ達成が大切だ」と嘯く。これで来年もスキー合宿に行ける資格を得た気持ちが強い。私への投稿依頼の本当の狙いも、端から文章力ではないでしょう。「駄文の中に、真実があり」である。もしかすればと、来年の新参加者獲得に貢献出来ればとの思いが見え隠れする。それならば、間違いなくスキー合宿は面白いですよ。是非次回の参加を！

・特に、年金組の皆さまへ

私も“定年後の過ごし方をどうしようか”と考えた時に、スキー合宿の誘いが来て再開しました。“今更初めて足でも折ったら、物笑い”と躊躇するも、老い先短き故に、今出来ること(ただし面白そうなことのみ)は、取り敢えずやってみましょうの精神で始めました。始めてみれば、スキー場(野沢の場合)は今や老人パワーと外人さんの世界です。そして用具も進化して、カービングスキー全盛です(短くて回りやすい)。スキー場も進化して、概ね何処も、然程、待たずにリフトも乗れるようです。更に、ゲレンデ整備も進み朝一には圧雪車が入り滑りやすく地均しされます。用具もレンタルがあります(宿でも)。私も 2 回目まで利用しました。

結論、案ずるより産むが易しです。(産んだことがないので説得力なし) (笑)

スキー合宿の魅力はアフタースキーにもあります。参加者の皆さん、それぞれ個性豊かで、この出会いがまた楽しい。初めての方ともいきなり、微妙な話題でも過激な話が始まっても安心です。そこには、学生時代に、特に目標も持たない体育会系とも文化系とも肌合いの違う、ある意味怪しげな集団(クラブ)に属していたとの一点で繋がっている安心感があります。そこには、なんの利害関係もなく、多分価値観が近い(?) ことに依るかもしれません。

ちょっと、話がそれましたが、話を戻して、夜の宴では、恒例となったお茶会が催されます。勿論、全国各地の銘菓付きです。辛口向きには、これまた各地の銘酒のオンパレードです。私など

はこちらが目的のようなものです。

もう一つは、一年間の活動報告もあります。多士済々の方々の集まりです。いろんなメディア経由でなく生の情報です。質疑応答自由です。さらに、茶化しが時々入って臨場感満点です。そして個人の特技披露もあります。田村御大のノーベル賞並みの理論発表も（あまり聴いていない）時にはあります。運が良ければ、すばらしい篠笛演奏やシャンソンも聴かれるかも知れません。そして歌声喫茶並みに山の歌の合唱もあります。

最後は、やはり田村さんの“四高寮歌”で締めます。

アフタースキーは、夜の宴ばかりではありません。野沢温泉自体も立派な観光地です。一寸熱めの源泉かけ流しの外湯めぐりもあります。そして、宿の食事も地場野菜使用の会席料理で美味しいし、自家製野沢菜も格別です。

・現役 OB 組の皆さまへ（エール文）

日頃のお仕事、お疲れ様です。

年金組の戯言をお許してください。

早速ですが「ワングルに入っていて良かった」と実感している今日この頃です。というのも、定年後時間潰しで困ったことはありません。

一人遊びが苦になりません。当てもなくふらっと出かけます。そして無事帰ってくるのです。これは、

（下地はあったでしょうが）ワングル時代に身に付いた特技です。特技（？）と思われる人もおられますが、普通の人には案外難しいようです。なぜなら、殊に無人の自然に入り込む場合普通の人には、平常心が保てないようです。そうです、我々ワングル育ちは何時しか、この能力を身に付けていたのです。オマケに、こうした能力は自転車の乗り方の様に忘れないもののようです。

もしや、ワングル生活が回り道ではと感じて居られましたら、断言出来ます。間違いなく、今や最先端の活動です。（ただし、効果享受は 60 歳以上）

ワングル OB の皆さん、未来は明るい。8,9 合目です。多少の苦労は目をそらし、野辺の花でも眺めて進みましょう。そして、いつの日かスキー合宿でお出合できれば、最高です。

駄文に、最後までお付き合いありがとうございました。

今回は、この参考 DVD 無くしては、1 ページも進みませんでした、保田氏に心より感謝申し上げます。

#### （参考文献）

DVD 「16th KUWV-OB スキー合宿」

制作/保田 敦 氏



## 小豆島の名勝・寒霞溪を登る

6期 合津 尚

瀬戸内海の小豆島の元火山であった星ヶ城山(標高 817m)の寒霞溪は紅葉・奇勝で有名である。古い火山の崩落による寒霞溪周辺の奇岩と、瀬戸内特有のハゼの木が多い樹林帯による深紅の紅葉は特に有名である。

この度は、季節はずれの3月上旬にこれを登ることになったので、以下に登山体験を記します。

天候は穏やか、早朝5時にヘッドランプを灯して500人の集団でスタートした。ルートは先ず島の北面に周り農村地帯に入った。明るくなって来て判ったのだが、オリーブの島にしては意外と棚田がすばらしかった。島とは本来は山が海に沈んだか、山が海から隆起したわけで周回しようとする、当然ながら登り降りが多くなる。100mほどの小山を数回通過して、今度は海岸線に出る。海は静かで風も無く、うす曇りでコンデションは悪くない。快調に走り町中を抜けて25kmあたりからまた山間部に入る。

山裾の道路で100m程度の登り降りをまた繰り返す。穏やかな内海の眺めが印象的だ。オリーブの畑が多くなると一旦海際に出て、いよいよ寒霞溪710mの登り口となる。最初は緩やかな登りで35kmあたりから徐々にきつくなった。ロープウェイの発着駅からは完全に走れる勾配でなくなった。この遊歩道の周辺には野猿が多く、姿が見え隠れする。45kmの寒霞溪の頂点に達したのは11時で、ここで6時間経過、休憩所で素麺とオニギリを食べて活力を入れる。後は降りなのでソックスを取り替える。50km地点で目標としていた7時間を30分オーバーだが、まずまずのペースだ。

頂上付近から700mも一気に走って降りるとヒザを痛める。平地に降りてからダメージを受けるので慎重に走る。元の入り口に戻ってここで55km。これからがいよいよ勝負だ。食事とトイレの問題だが、この種の大会では

およそ5km毎に給食と休憩ができるステーションが設けてある。ドリンクとかバナナ・お握りなどの軽い食事のサービスが受けられるので、励みになる。ここではお汁粉とスープを食して走りだす。当然これらの費用は参加費で賄われるのだが。昔の二十四の瞳の岬まで往復で20km。ちょうどハーフマラソン分だ。海岸線に沿って平坦だが、速いランナーとすれ違うので、自分の遅さがはっきりと解ってしまい元気が出ない。そろそろ疲労と気力の減衰が始まる。65kmの二十四の瞳映画村の折り返しまでは遠かった。

また先程のステーションに戻り、ボランティアの小母さん達と雑談をして、気分転換を図る。あと25kmに対して門限までは5時間が残る。1時間は余裕で残るとの目算で、甘酒を飲んで走り出す。海岸線に沿って夕陽を正面から浴びて眩しいが、絶景の眺めだ。85kmからまた登りが始まる。最後の難関である100m前後の小山の登り降りを繰り返すので、ほとんど歩きになってしまった。どんどん余裕時間が食われて行く。薄暗くなってきたのでヘッドランプをまた装着する。民家がない半島の岬周りの道で、街灯などあるはずもないし。

90kmすぎて前に行くアラフォーらしき女性を追い越したら、ライトを忘れてきたので連れて行って欲しいと頼まれてしまった。この暗闇では仕方ないので道連れとなることにしたが、当然のことながらペースが遅い。雑談しながら走るといっても歩くこと約5km、余裕時間を使い切ってしまう。幸いにもまた前に行く若い男に追いついた。ライトを持っていたので女性を預かってもらうことにした。制限時間に間に合うかどうか怪しくなってきたが、走る速度がもう上がらない。体の各所で疲労が溜まり痛い。

門限6分前の15時間54分でやっとゴールにたどり着いた。5時に走り始めてもう夜の9時前だ。結果の分析としては、大小の登り降りがおよそ1,500mにもなった。このために通常の100kmウルトラマラソンよりは3時

間ぐらいは余分に必要だ。給食所が 20 箇所、各々の場所で 4 分程度浪費しているの、1 時間半以上は食事時間とトイレタイムになる。こんな風に考えると納得せざるを得ない結果か。500 人で完走率が 70%、100 km を完走よりも完登か。

## テントを買いました

6 期 合津 尚



今年の 6 月末をもって退社したので、心機一転モンベル製のテントを買、山の装備も更新した。本格的に自由な山登りが出来る身分になった。早速 7 月中旬に尾瀬でトレーニングした。

8 月 17 日から天候が安定しているので、南ア南部の樫島を拠点として、聖岳～赤石岳の縦走にテントを担いで出かけた。

17 日は静岡駅から静鉄の畑薙ダム行きのバスに乗り、ダムから東海フォレストの送迎バスで樫島に入った。この地域全体は私有地につき、土地の使用料として施設で一泊する必要がありロッジに泊まる（風呂つき）。無駄な時間が生じるがしかたがない、但し、送迎バスは無料で利用できる。

翌日は送迎バスで聖沢登山口に 6 時 40 分に着き、登山開始。沢に沿って約 1,100m 登り聖平小屋に 14 時に到着。この登りはダラダラと長い、木陰が多く沢の水場が多く夏場の登りには向いている。

テント場でテント設営に手間取っていたら、

隣からひやかされてしまった。こんなことでは雨の時、テント泊は無理だ。夜は満天の星空をテントの出口から顔を出して眺める。至福のひと時。

なぜ至福かというと、静鉄のバスの中で突然にコッヘルを持ってこなかったことに気が付き、慌てた。戦に刀を忘れたようなドジ。久しぶりの食料準備に気をとられた、さあどうする、ナベなど買える場所じゃないし、引返すか?? 樫島の食堂でナベを借りるか、その前に途中の停車駅に小さな売店・食堂で勝負するか?

結論として、この途中の食堂で使用中の片手ナベをゲット。鍋を忘れて炊事が出来ないといい、バアサンを口説き強引に借りた。この片手ナベは以外とパッキングし易く便利であった。そんな訳で、カップ麺の容器を食器にして辛うじて食事にありつけた。これで登山が遂行可能となった。

三日目、いよいよ聖岳への登りから百聞洞小屋までの難関コースだ。4 時起床で撤収ではテントが夜露でびしょ濡れ、歩き始めが 5 時半。ところがなんと新調した登山靴の肝心の上から三番目のフックが欠けてしまい、足首のところが絞れない。今日も先々大変だ。



この聖平から薊畑周辺ではトリカブトの群生が目立つ。鹿の食害の逆で、毒性結いに食べ残しで繁殖してるのか。聖岳の山頂には順調に到着。珍しく記念撮影などする。10 時には早くもガスが出始めた。聖から兎岳への下りはハードで、兎どころかヤマアラシのごとき。靴のこともありで苦勞した。途中にラ

ジオラリアとかいう赤い岩場があり、赤石の大倉尾根と同じものようだ。これが赤石岳の語源ではないだろうが。



兎を過ぎてからは散歩気分で 14 時半に到着。テント設営は慣れてきたのでスムーズになった。夜は満月に近く星空はなし、鹿の鳴き声が近くです。

20 日、天候はまだ晴れだが、そろそろ下り坂の気配で、思案の結果途中の赤石小屋泊まりを止めて榎島へ一気に下ることにして、5 時出発。赤石岳の登りは昨日の縦走路を復唱するように横から眺めながら。頂上では定年退職後の単独行が多く、互いに記念撮影をする。

赤石岳からの下りは今回で 2 度目だが、ここも悪路で苦勞する。途中の富士見平は展望台だが、ガスが出てしまい残念。この日に会った登山者は凡そ 40 名。南アの有名な山でも静かなもんだ。

榎島のテント場には 2,000m を一気に下り、想定内の 17 時着。天気心配も無いので優雅な一泊と期待したが、想定外のやぶ蚊の襲来で大変な夜となってしまった。更に食事もカレーなどと工夫ができないのでアルファーム、副食のソーセージ等だけでは流石にウンザリ。やっと素麺を茹でる。翌朝はのんびりしたかったがテント内は暑くなったので撤収。血を吸ったやぶ蚊が十数匹もいた。時間があるので大井川源流で水浴をする。水が冷たく長くは入っておれず、甲羅干しとなる。それから川砂で使い古した借りたナベを新品の如くに磨く。帰り途中に謝礼を含め返却したと

ころ、感謝されてお返しに地元のお茶を頂戴した。

久しぶりテント泊の山も事件があったが、なんとか無事に目出度く終了。帰りのバスに乗り込んだら空が怪しくなってきた、新幹線が停まる程の雷雨となった。

#### 今回の登山で得たこと

1. コッヘルは忘れずに必ず持参する。
2. 天候の見切りが特にテント泊では大切。
3. 南アの小屋周辺ではテント場がある。
4. 片手ナベは使い勝手が以外と良い。
5. 夏は蚊取り線香が必需品であること。
6. 登山靴のフックが折れた事故で、下山後も右膝に後遺症が残った。フックの内部欠陥をどう点検するのか？
7. 南アは人が少なく、以外に雷雨も少なく涼しかった。この南ア南部の山はお薦めです。
8. 静鉄南アルプス便は往復とも予約が必要なこと。静岡駅を 9 時 50 分発の一番のみ。
8. 「サワラ」とは：ヒノキの一種だが素人には区別がつかない。土地の人によると榎は木の香が無いので区別できるそうです。切らないと判らないが。

## 小川修司さん古希記念・北岳の山旅 —北岳草との出会いを求めて—

8期 篠島 益夫

古希を迎えられた6期小川さんには前年よりご提案して来た北岳記念登山であったが、当人はワングル現役時代にも合宿で経験済みの山だったので今度は時節を変えて「きただけそう」や「ちょうのすけそう」に出会える時期を予定した。

しかし、天候の関係で出発予定が徐々に遅れてしまい、肩の小屋の話では今年は6月10日頃から「きただけそう」が咲き出ししており例年よりも早い。7月初めまでなら自生地の雪解け具合により開花が遅い場所もあるので何とかなるでしょう、という話であった。山開きの6月20日過ぎには大樺沢（左俣）では雪溪の雪が多く軽装備では無理だが、右俣は雪も少なくアイゼンがあれば十分との小屋情報で、登りは右俣コースを予定して天候の安定を待った。

**第一日** 6月30日（日曜日）出発地神戸は  
高曇り・到着地芦安は雨模様

漸く出発の見通しがたち、この日は名神、中央道から南ア入口の芦安へ入った。

途中は時間に余裕があり米原では山室湿原に立ち寄り、今盛りの「かきらん」と少し残った「ときそう」を見てきた。芦安到着後は広河原に出るバス停と都合の良い自分の駐車位置の確認してから15:30には「民宿なとりや」に入った。

**第二日** 7月1日（月曜日）曇り後霧雨・肩  
の小屋は曇り

早朝に民宿を車で立ち、芦安バス停で6:30のバスに乗り広河原山荘7:45出発で登山は始まった。天候は怪しかったが、大樺沢沿いの二又への道に入ると霧雨状態となり、カップ上着を着る羽目に、二又までの途中は土砂災害で登山道も少し迂回していたが、10:20着でコースタイム通り、ガスで視界

が悪く全く展望は無い。登山者も数名しか会わない。休憩後右俣コースを登り始める。雪溪も少しは出てくるが斜度も少ないので、アイゼンも不要。その後は急登が続いて白根御池コースからの合流点になかなか出ない。腹が減ったし疲れた。という事で11:15には昼食休憩、少しましになったが、霧雨状態が続いている。この状態は予想済みだったので、小川さんも私もカップズボンで民宿を出ていた。

25分間の昼食休憩をして出発すると相変わらずの急登であるが、10分で御池コースとの合流点に出た。此处では数名のパーティに出会った。

昼食後はピッチが落ちた上に休憩が増え、13:30に漸く小太郎山分岐に出た。此处までは昼食休憩の時間分だけのコースタイムオーバーではあったが、山は久しぶりの小川さんは大したものだ。登山予定が天候不安定で今日まで遅れていたのも初めは期待していなかった。「ちょうのすけそう」が今頃なら期待できる小太郎尾根なので、丁度、尾根から戻ってきた女性2人組に「ちょうのすけそう」を聞いて見た。

尾根の稜線は凄いな花畑で「ちょうのすけそう」も二つ目のこぶを越えたら稜線西斜面にありますよ、との話で、先ず私が偵察に出かけた。彼女の話の通り稜線を進むと「いわうめ」、「みやまきんばい」、「おやまのえんどう」などがびっしりと咲く間に「ちょうのすけそう」も広く群生していたので、こぶ迄登り返して小川さんに合図を送り、この辺の花の岩尾根でしばらく遊んだ。

此处から北岳頂上が展望できたら良いのだが、霧雨は止んだものの霧が深くて近い小太郎山しか見えない。

小太郎山分岐へ登り返して肩の小屋に向かう、幾つかのピーク越えが有って直ぐには小屋は見えないが、「きばなしゃくなげ」や「はいまつ」の多い岩尾根を進んで15:00丁度に小屋に到着。コースタイムでは30分となっていたが、小太郎分岐から40分での

んびり登って到着。幸い天候は回復気味で霧も少しずつ晴れてきた。7:45に広河原を出てから7時間15分のゆっくり登山だった。



ちょうのすけそう・北岳小太郎尾根

#### ・1年ぶりの邂逅（広島の人）

肩の小屋で夕食を終えて2階スペースで荷物を整理していたら、隣の夫婦の話が聞こえてきたが、どこかで聞いたような会話なので見ると知った顔、お互いそのような顔になったので、声を掛けると昨年中国の九寨溝・黄龍・大姑娘山登山で13日間も一緒だった広島の夫妻だった、今回の旅の偶然の出会い第1号だった。

### 第三日 7月2日（火曜日）晴れ

5時に朝食。この日は肩の小屋—北岳山荘—中白根山—肩の小屋コースでゆっくり。

北岳山頂から縦走路を愉しむ予定でサブザックの軽装で6:40に出発。花の多いコースを愉しみ、北岳山頂には40分で到着。古希記念の撮影を終えて、本命の花「きただけそう」を求めて頂上下の分岐から左手八本歯のコルに向かうトラバース道を下り始めた。少し下ると、少しだけ「きただけそう」が残っているという登山者の話の通り、この辺りは開花が早く、多くの北岳草は開花が終わって数株だけを確認して、コル分岐からトラバース道に入った。此処が本命の場所だ。少し進むと右手の岸壁に白山イチゲと混じって「きただけそう」が表れてきた。写真に夢中になっている人が増えてきた。さらに進むと人は居なくなったが「きただけそう」も目立たなくなり「ちょうのすけそう」が目立ってきた。北岳山荘へ向かう心算だったから、さらに進

むことにする。トラバース道に雪が残る場所に出たので、これも踏み越えて進んでカーブを曲がり切ると突然、「きただけそう」だけの大きな群生の岸壁に出てきた。雪が遅くまで残って開花が遅れた場所であり、花は今が最高の時期という感じだ。小川さんと二人で白山イチゲと混じっていないのは此処だけかと群落を見ながら狭いトラバース道でしばし休憩。ここも直ぐに白山イチゲも咲き出して混成になるだろう。此処を過ぎると、白の「きただけそう」は無くなり右手斜面には黄色色の「しなのきんばい」が目立つようになった。

北岳山頂から北岳山荘に向かう縦走路の合流点で、南アルプスの大展望を愉しみながら好天の中で広い稜線に腰を下ろしてゆっくり愉しんでいたが、小川さんが靴の異常に気が付き、北岳山荘へ向かうのは止めて再び北岳山頂経由、肩の小屋に戻り靴の処置を急ぐ事にした。小屋への帰路は時間的、距離的に短い縦走路を登り、頂上でゆっくりしてから肩の小屋へ下りたのが10:00だった。持参の補修材料に加えて小屋からも道具と材料を貰ったが、靴の修理は思いのほか、時間がかかり難しかった。

判断としては、今日の内に白根御池小屋まで下山した方が良くと考えて、肩の小屋から白根御池小屋の予約を入れて貰い、昼食も済ませて11:45には小屋を辞し、右俣・草すべり分岐を経て白根御池に向かった。靴の処置を時々しながらの下山で少し時間を要したが、13:50には新しくなった白根御池小屋に着いた。小川さんは明日の広河原までの下山に備えて再び靴の処置に余念が無い。

#### ・再び新たな邂逅

小屋外のベンチで小川さんの作業を手伝いながら小屋前を往来する人を見ていたら、一人が立ち止まって此方を見ているのに気が付いた。よく見ると昨年の大姑娘山登山の折の添乗員だ。彼のお客の世話が一通り済んでから改めて話した。アミューズトラベルの

社員だったが、会社が廃業して今は他の山ツアーで働いているとの話、何度もツアーで一緒の若者だ。今も山を仕事にしていると昔のお客さんに会う事は珍しくないようだ。

・更にビックリの出会い

小川さんが作業を終えて 2 人で部屋へ戻ろうと部屋を空けたら「えーあんたどうして」という具合にいつもの仲間がそこにいる。

春日井市に住む 12 期の野村益巳さんだ。こちらは下山、野村さんは登り、過去にも似た体験はあるが、今度の山旅では偶然の出会いが 2 日連続で 3 件もあった。偶然ではあるが多い。



きただけ草・北岳トラバース道

第四日 7月3日(水曜日)曇り

5 時には朝食を済ませて小川、野村、篠島の 3 人で小屋前で記念撮影。野村さんはそのまま登って行った。小川さんと私の二人は 5:45 に出発。広河原山荘には 7:50 着。とうとう花の北岳も終わった。

ビジターセンターを見学後、芦安へ出る乗り合いタクシーで 9:50 には芦安駐車場へ。車のキーがザックの裏地と表地の間にはまり込んで見つからず慌てたものの、駐車場前の温泉「はくおう会館」で汗流しと食事を済ませて帰途についた。7 月 1 日に民宿を出る時に落としたと考えられる私の携帯電話も、民宿からの連絡で分かり、無事回収できたが、下山後に今までになくバタバタしたのは反省させられた。

この日は芦安温泉を 12:00 に出て、中央名神道を寄り道もせずに戻り、小川宅 18:00 着。私は 19:40 神戸の自宅に戻った。走行距離は往復で 832 km であった。

花の「きただけ草」ばかりか、3 回 4 人もの山仲間との偶然の出会いに、恵まれた貴重な体験の山旅となった。

後日、この山旅の写真をもとに小川さんの古希記念登山の額が出来上がった。



14期 仁藤 早苗(旧姓 矢津)さんからののお便りです。



先輩の三尾秋子さんより個展の案内が来た!

いままで5人展の案内はよくもらっていたのですが、今回は行こうかなあーと思っていましたら、午後にパークッションの演奏会にも来てよと話があり、11時から神楽坂で三尾さんの個展に、午後は狛江でパークッションと1日を組んで行って来ました。10月27日です。

5月のクスリ、樹脂に「楮」(こうぞ)の繊維を絡ませたものを彼女の感性で並べたもの。

日曜日だったので見に来る人も多く、美しい造形もあり、彼女らしい素朴な話の内容が楽しかったです。

私は取れたてキャベツの大きいのと庭の石榴を3つ持って行き、オーナーの人にも欲しいと喜ばれました。

卒業してから都立大に住んでいた彼女のアパートに転がりこんで、就活。就職した後は時々会ったり、20年会わなかったりが、ここに来て2年に1度会う今日この頃です。



## 黒部下の廊下の難易度は？

15期 舟田 節子

「体力度」「危険度」なるものが、ガイドブックやツアーカタログにはついていません。

参考にはなるけれど・・・、「さて？」がつきまといます。

こういった基準については、コースタイムすら「さて？」の代物だといえます。スピードは天候やメンバー、体調によって変わるものですから、記載掛ける何パーセントで今回は歩いており、であれば到着予想は何時頃・・・のように、使うべきデータでしょう。

というのは、Y社のガイド本を今も担当させてもらっていますが、2回目の改訂時には、当時の登山者が大きく中高年にシフトした傾向を受けて、「所用時間を従来の1.5～2割増しで記載するように」との指示がでていたからです。従来のコースタイムのままでは山小屋に到着できない事例が増えつつあり、クレームになっていたのでしょう。コースタイムより早く着けば、「自分は足が速い方だ」と満足してもらえなくて、妥当な対処と考えられます。

しかし一方では、「甘くなった基準では、正しく日程が組めない」という苦情も出ていたようで、「あとがき」に、わざわざ「自分はシビアな方の所用時間を方針とした」と記載している筆者もいます。

このあたりは、捨てられない昔の集成図と見比べてみた際の、面白さの一つです。

しかしながら、今、改訂を2回体験した身で言うならば、割増しコースタイム以外の点で「ガイドブックなど当てにならない」と、言いたいところでは。

それは、机上推敲で済む文学書でもないのに、改訂猶予時間が2週間、しかも真冬に依頼されてきたりします。さらには担当者が下請けの下請けとなって、現地事情も山常識も知らなかったりします。面倒や経費もあって、「改訂なのだから、重大な変更がない限りはそのままでも可」が通ります。結果、15年前から「触らず」

のガイド本がまかり通っているのが現実なのです。私は現地チェックを一通りやるようにしていますし、この2月も担当14山中、11山の脚注に最新情報を加えました。しかしそんな下調査を明記した契約書などは存在しません。かつて、あるトラブルの際、むこうから契約書を個別に作ると言ったはずなのに、その後は問い合わせる度、言い逃れされ、スタッフが代わり、今日に至っているというのが実情です。（ガイド本全てがこんな契約事情であるのかは、知りません）

ガイド本に書かれていることが、「通常努力範囲内での」最新情報であるのか？そうであると誰が審査し、忠告・是正するのか？については、利用者からの多数のクレームしかないのでしょうか？

少しでも新しい情報を・・・と利用者は、購入時には出版日をチェックしているはずですが。その前段階で、賞味期限の書換えのようなことがなされていたら、信憑性もないわけです。ガイド本として本来なら譲れないはずのこと、出版の良心、誇り・・・今、それらは採算性の前に屈しているように思われます。

そんな時の「逃げ口上」のうちとなるのが「必ずK院の地図を持参すること」。ところが、これについても、その筋の方からは「地図を当てにしないで下さい」と聞かされています。経費削減で、克明にチェックするような時間など、ないのだそうです。実際こちらが登山道の資料提供をした時もありました（そんな場合は、地図が謝礼で頂けます）。

その下請けをバイトでやっていた人からも、「私達のような学生が、写真を見比べて（植生をざっと）記入していました」と聞かされました。

秘密警察が横行しているような国は困ります。しかし、世界に誇る公明正大な国日本で、経済効率の下、「その程度でいい」が横行しているのも、相当に困ったことではないでしょうか。

運の悪い企業や官公庁やが、時々貧乏籤を引

いてテレビで謝罪役をやり、ようやく悪慣行が露呈する・・・は資本主義の必然なのでしょう  
か？

そうなるとう山に関しては、ツアーカタログ情報がかえって信じられるといったことがおきてきます。現地コース状況や所用時間のデータなど（顧客の経験データも）、会社内で申し送りされています。これら実施データこそが、会社の知的財産といえるわけです。さらには、積雪期や長雨の後などには、リーダーが事前に、ツアーが可能であるかを視察に行っています。（それも含めたツアー料金といえます）

最新の山情報の獲得は、私企業の方が会社の命運を掛けて、真摯にやっているともしえそうです。

ですから、私もツアーを参加利用するだけではなく、ツアーが今現在で企画されているかどうかを最新の情報源として、個人山行を計画する機会が多いです。わざわざ〇〇課に問い合わせても、おぞなりの返事しかもらえない（責任逃れで、年々その傾向がひどくなる。犀奥もそうです。）場合があり、こと山情報に関しては、そのやり方が現実的です。

上信越の平ヶ岳がよい（悪い？）事例です。「中ノ岐林道は、一般車両は進入禁止」が、公式見解。銀山平民宿の宿泊者サービスは暗黙の了解であって、公式ガイド本に載ることはありません。そんな暗黙の了解がこれだけ口コミ蔓延して、平ヶ岳をめざす者の常識となっています。

「活字になったものを活字になっているというだけで、どれほど信用できるものなのか？」の疑いをもった時、ではそこに書かれた「危険度」「体力度」、つまりはコースの「難易度」も、どう解釈していけばいいのか？

さて、やっとな表題です。大昔、私達 15 期が新人であった頃には、非常に安全策が採られていたように思います。それは新人トレ事故が遠因だったのでしょうが、PWでの、穂高Wもダメ、剣Wもダメという具合でした。どう見ても

自分達より劣る登山者の列を、現地で見送るしかありませんでした。それらの山に後には個人的に登りに行きましたし、その反動のように、自分達がリーダー学年になった時には、かえって活動域を広げたりもしていました。

しかしながら、「危険」の認識を、一般登山者より、かえって強く持つ場合があり、そのズレについては、この時期の後遺症のように自分では考えています。（何せ大きなキスリングを担いでいた時代ですので、その点も安全基準の違いになったのでしょう。）

ともあれ、「黒部峡谷下の廊下」なる所は、岩トレや沢トレをやったような人達が行く所・・・と長く思いこんでいました。その頃買ったガイドブックにも、「体力度」「危険度」と、最高の星が並んでいました。滑落の記事を見たり、また、密かにそこへ行った人達が、例会でつるし上げを食うなんて事件もあったりしました。

ところが、丹沢で早々にバテたお婆さんが「先週は下の廊下を歩いてたのヨ」などと開き直る。地元の山ツアーに、「下の廊下」コース（但し、平日）が出る・・・あれれ？何、そんな程度のコースなの？

ともあれ、某社ツアーカタログには、会員限定、山岳保険加入必須、ハイリスク承諾書提出が並び、早々と満席になっていました。満席なら、考慮外！

いよいよ職場で考査日程がはっきりした日にHPを開けると、「残席 2」になっていました。即、電話を掛けると、それもさらに埋まって、キャンセル待ちと言われました。私は現地合流ができるので、新幹線予約などは不要につき、ぎりぎりまで待てること返事。5 日前になって繰り上がり参加OKの連絡がきました。

そうやって難易度うんぬんとゴネていたわりに、現実にはキャンセル云々の話だけに収束し、にわかには現場に突入という経緯になりました。

そんな下の廊下ツアーには、男性 7 名、女性

7名が参加（普通のツアーなら女性が8割くらい）。山ボーイも山ガールもいて、これまで参加してきたツアーでは、平均年齢が一番若いメンバー構成でした。男性にヘルメット姿が3名いて、(必須の場合は、装備表に記載してある。ちなみに今回は、ストック使用禁止となっていた)、被らない当方が舐めているようで悪いかなど思ったり、かたや自分よりもっと老いた方を3名ほど見つけて、安心したりもしていました。(誰も、自分がワーストにはなりたくありませんからね)

午後の扇沢駅のライブカメラには積雪 25cmの室堂が真っ白に映っています。

天気予報はどんどん悪くなり、核心部を歩く日が、雨。ただ、台風や前線というものははっきりはなく、天気図には現れない寒気が入ってきていての雨でしたから、よほどのことがない限りは決行となっていました。

そして実際、夜中から早々に降りだしました。非常灯だけの食堂で朝食弁当を食べ、4時前にロッジ黒四を立出。ダムトンネルで身支度を整え、ヘッドランプを頼りに河原への急斜面を下りました。

今回のリーダー2人については、某社の中でも岩のエキスパート。彼らはハーネスをつけ、すぐ救助にかかれる装備を整えていました。

今回は事前にしっかりインターネットで予習していきました。世の中、「行って来たゾ！」を載せたい人は、山ほどいるものですね。まして下の廊下などなら、なおさらです。

番線がきっちり張られていることがわかり、高度図も、そしてGPSによる写真との照合も。なるほど、これでは出版物はますます売れなくなり、在庫量のみで改訂時期が即決されるのも納得の心地になります。さらにどんな年齢層が、どんなスタイルで、どれくらいの荷を背負って・・・なども、観察できます。

反対に、これだけ疑似体験できる時代に、どうしても現地へ行きたいということの意味は？が問い直されているようにも思いました。

ともあれ、自分が想像していた以上に、このルートは通行者が増え、それに合わせて整備は

進化していったようです。

リーダーの的確な指示のお蔭なのでしょうが、そして雨のために、余計にゆっくりペースで歩いたせいなのでしょうが、結果的に怖いとも思わず、十字峡やS字峡を見下ろし、阿曾原温泉小屋に着いてしまいました。

翌日は晴れ、そして11年前に裏剣からの縦走で歩いていたコース、なおのこと余裕で、長い水平道を歩き、樺平へ下りました。

とうとう下の廊下を踏破したゾ！という喜びと、「危険」は思い込みだったのか？の不可解と、では経験したうえで「危険度」はどのくらいといえるのか？の謎が残りました。

ちなみにリーダーによれば、過去には一人が滑落し、幸運にも途中で引っかけた事例の体験があるとのことでした。

「危険度」「体力度」について・・・体力度は多少は日頃のトレーニングが必要です。

でも、うまくペース配分してもらい、給水・エネルギー補給も先手でやっていけば、そう緊急事態にはなりません。危険度も、その場その場での的確な指示を出してもらい、ゆっくり通過し、集中力を切らすことがなければ、格段に下げられます。つまりは絶対的な基準ではありません。

そのようにグンと可能性が広がるのが、ガイドがいてくれる有難さです。それを自分の実力と錯覚するのは怖いことですが、ガイドを利用すれば、より長く、より幅広い楽しみ方が出来ます。重ねて、プロガイドを利用するなら、「危険度」も「体力度」も、つまりは山やコースの難易度も、変わってしまうということです。

ここまで、黒部下の廊下の話で進めてきました。では、エベレストの「危険度」「体力度」「難易度」はどう捕らえられるのでしょうか？

元々がエクスペディションは、シェルパやポーターを雇ったうえでの話です。お金をかけて、酸素ボンベを増やし、前進キャンプの数を増やし、さらにはより危険な下山を、ヘリコプター

頼みで解決するのを前提とすれば、「危険度」「体力度」「難易度」は格段に下がっていきます。

2013年のM氏のチャレンジは、最初から、従来のエベレスト登攀とは別次元の話でした。チャレンジはまあチャレンジであるけれど、これだけ基準を変えてやったことに「世界一」と舞い上がるのは見苦しいと、私は眺めています。金に飽かせた「世界一」「勇気」に、「周囲に元気を与える」なんて身勝手な解釈をつけず、「お騒がせな物好きで・・・」くらいが、品がいいように感じています。

もともと、1億5千万円の金が動き、内外の人が潤い、Mドルフィンも十分マスコミ宣伝が出来ました。

なにしろ、ツアー代金を払って、おばさんが丸腰で下の廊下に入り込む時代です。

とうの昔に「冒険」といえる時代は去り、ことさら山を持ち上げたり、もったいぶったりする時代ではなくなったのです。

加齢の方は、いつまで、何を利用して楽しむか？若い方なら、どんなファッションで、どんなパフォーマンスをやって、どんなハイテク機器で楽しむか？もう衛星から10cmを識別可能な時代、GPSで位置を追える時代になっているからこそ、「本人がその現場に行き、自身の五感で味わう」ことこそが、最大目的になってきたといえるかもしれません。

さて、写真添付にあたり、雨の日の下の廊下はあまりにお粗末なものしかありません。怖さを感じなかった状況とはいえ、自分をモデルに「へつり」で記念写真を撮ってもらうなどは、やはり論外でした。

写真情報として、3月末に行ったネパール・石楠花のアンナプルナを追加します。春休みに収まるツアーということで、「岩崎元郎さんと行く地球を遠足/シリーズ」を選びました。

ここには9日コースと、ゆっくりの11日コースがあり、それで、難易度が1ランク変わります。きつい所（靴表示で5個とか4個）が先の方針の私にとっては、初めての靴が2つ半でし

た（参加者の平均年齢も高かった）。

結果的には、ゴラパニ峠で2泊した岩崎氏の11日組が、翌日のダウラギリの大展望を満喫でき、前日のうちに下山であった9日組の方は、ダウラギリを一度も拝まずに標高を下げることになってしまいました。

走って山に登ったら、路傍の花を楽しめないではないか！「ゆっくり礼賛」に傾いてきた私にも、これはさらに今後の示唆に思えた事例でした。ゆっくりの方が体が楽だけでなく、景色を楽しめるチャンスが増える場合もあります。

いわゆるハードルート踏破に嬉々としたり、難易度評価を正しくないと思ったりではなく、どれだけ現地を楽しむか？周囲を含めて、どれだけ満喫するか？

そのために手段や日程、コースを考えてみる・・・そういうことがやれる時代に自分の老後が重なってきたことは幸いというべきです。

そういうことを特に考えさせられた2013年でした。



写真① 雨の下の廊下に行く



写真② シャクナゲに埋まるゴラパニからのダウラギリ

## 明治は続くよ、いつまでも 四高ゆかりの明治村

17期 小島 敬

2013年は北陸本線全線開通（大正2年）百周年でした。もう明治が終わって100年以上たつのですね。まさに明治は遠くなりにつれ、です。

### 【四高の同級生が明治村を設立】

四高の同級生だった谷口吉郎（建築家）と土川元夫（名古屋鉄道会長）の二人が明治村を作ったことを、知っていましたか？

博物館明治村は愛知県犬山市の入鹿池畔の丘陵地にあります。1965年（昭和40年）に開村した、日本のテーマパークの草分け的存在です。100万平米の敷地（金沢大学角間キャンパスの半分）に、主に明治時代の67件の建築物等が移築保存され、この内、聖ヨハネ教会堂、西郷従道邸、札幌電話局など10棟の建築物と2つの産業機械が国指定重要文化財です。帝国ホテル中央玄関棟や森鷗外・夏目漱石住宅も人気の建物です。漱石はこの家で『吾輩は猫である』を執筆しました。家には、ちゃんと猫のくぐり戸もあります。

明治村には、金沢ゆかりの建物が3つ移築されています。「第四高等学校物理化学教室」、「第四高等学校武術道場（無声堂）」、そして「金沢監獄」です。特に象徴的な建物が物理化学教室です。谷口吉郎と土川元夫が、ここで共に学びました。後の同窓会で二人が交わした、明治時代の建築物を移築・展示する野外博物館の構想が、明治村の設立へとつながったのです。



写真①物理化学教室

二人の略歴を見てみましょう。二人は同じ年に四高へ入学し、同じ無声堂で青春のひとつきを過ごしました。

谷口吉郎〔1904年～1979年〕

金沢市片町に生まれる。生家は九谷焼の窯元。1918年、石川県立第二中学校入学。1922年、第四高等学校理科入学。弓道部所属。1925年、東京帝国大学工学部建築学科入学。1928年、東京帝国大学卒業、同大学院入学。1930年、東京工業大学講師。1943年、東京工業大学教授。1964年、明治村初代館長。主な作品：千鳥ヶ淵戦没者墓苑（1959年）、石川県美術館（1959年）、帝国劇場（1966年）、東京国立近代美術館（1969年）等。息子の谷口吉生も建築家で、最近の作品は金沢市本多町の鈴木大拙館（2011年）。金沢市立玉川図書館（1979年）は唯一、親子での作品。

土川元夫〔1903年～1974年〕

東京本郷に生まれる。1916年、愛知県立第一中学校入学。1922年、第四高等学校理科入学。剣道部所属。1925年、京都帝国大学法学部入学。1928年、京都帝国大学卒業、名古屋鉄道入社。1961年、名古屋鉄道社長。1962年、財団法人明治村常務理事。

谷口は、明治の建物が失われていくことに対し、こう記しています。

「先日、日比谷を通ると、黒門の奥にあった鹿鳴館の姿が消えているのに驚いた。あの建築を保存し、明治に生まれた人々が所持品や資料を持ちよって博物館にしたら、明治の記念になっただろう。それこそ次の時代におくるよき贈り物となったことであろう。惜しい気がしてならない。（『明治の愛惜』谷口吉郎 1940年11月8日「東京日日新聞」）」

谷口は、この博物館実現の為、土川に協力を求めました。二人は多くの困難を乗り越え、四半世紀をかけて明治村を開村させたのです。

### 【博物館明治村】

正門（旧制八高正門）横の入場券売り場には、『明治生まれの人は入場料無料』とあります。今や自力で入場できるのは日野原重明さん（明

治 44 年生) くらいです。明治生まれの人が来村したら、無料どころか、村を挙げて大歓迎すべきです。そろそろ、「後期高齢者 (75 歳以上) 無料」に変えた方がいいのでは? 高齢者を無料にすれば、子や孫たちも一緒に遊びに来る機会も増えると思われれます。明治村の入場者数は 1968 年度 (158 万人) をピークに減少し、最近では 4 分の 1 の 40 万人前後で推移 (2011 年度 41 万人) しています。2011 年度の金沢 21 世紀美術館の年間入場者数は 149 万人ですが、この内、有料施設入場者数は 36 万人です。明治村に無料エリアを設けることは難しそうなので、無料の対象者を拡大して来村者を増やし、明治村そのものに親しみを持ってもらうことが必要でしょう。

ここにはスリリングなジェットコースターも派手なアトラクションも、賑やかな鼠達の電飾パレードもありません。古い建物が湖岸に点在しているだけです。でも、心落ち着きます。ここにあるのは、すべて本物だからです。年齢を重ねてきた身には、古いものが大切にされているのを見ると、しみじみとありがたく思えます。

明治村の村長には広報大使として著名人が、館長には建築の専門家が代々就任してきました。初代「村長」は徳川無声。2 代目は森繁久彌が継ぎ、3 代目村長は小沢昭一 (2004 年～2012 年) でした。初代「館長」は谷口吉郎 (~1979 年) が務め、以降、関野克、村松貞次郎、飯田喜四郎と続きます。現館長 (5 代目) は東京大学名誉教授鈴木博之 (2010 年～) です。

小沢昭一 3 代目村長は、就任後、次のように語っていました。

「明治村を散策すると、楽しく遊んでいるうちに、何よりも心がうるおうのです。『遠くになりけり』の明治が眼前によみがえると、いつのまにか、このあわただしい平成の世の中を忘れ、心が明治に帰って、父母や祖父母の胸の中に抱きかかえられている様な安らぎを得るのです。すばらしい明治村へ日本中から足を運んで頂きたいのです。いや、世界からも。だって、ここ

に、本物の日本があるのですから。」(『明治村だより』平成 16 年夏号)

「金沢監獄」(1907 年/明治 40 年) は明治の五大監獄 (金沢、千葉、奈良、長崎、鹿児島) のひとつです。五大監獄の設計責任者は、ジャズピアニスト山下洋輔の祖父で司法建築家の山下啓次郎 [1868 年～1931 年] です。啓次郎は、国内各地 (横浜、名古屋、京都、奈良、神戸、長崎、鹿児島など) を精力的に回った後、欧米八ヶ国 30 箇所の監獄を視察 (1901 年) に行くという、孫のバンドマン洋輔も驚く超絶スケジュールをこなし、その成果を作品に活かしたのでした。



写真②金沢監獄

小立野にあったこの洋式の監獄舎房は、放射状に獄舎が広がるハビランド方式で、一個所ですべての監房の廊下を見通せて、管理面で優れていましたが、採光や通風など衛生面での部屋の格差が著しく囚人には評判が良くなかったようです。金沢監獄では囚人模擬体験もできるので、ぜひ一度試してみてください。

「第四高等学校武術道場 (無声堂)」は、弓道、剣道、柔道の武術道場でした。谷口吉郎は弓道部で、土川元夫は剣道部で活躍しました。二人の卒業した 2 年後、井上靖が柔道部に入部します。



写真③無声堂

四高柔道部と言えば、井上靖の自伝的小説三部作のひとつで、沼津と金沢を舞台にした『北の海』が有名です。「練習量がすべてを決定する柔道」という言葉に魅かれ、浪人中の主人公・耕作が四高柔道部で過ごしたひと夏の出来事が、のびのびと屈託なく書かれています。金沢を離れる前々日、耕作が柔道部の先輩たち(大天井、鳶、杉戸)と香林坊でスキ焼鍋を囲む場面は、こう始まっています。

スキ焼屋は香林坊から他の通りにはいる角のところにあった。大きな店の構えで、入口の板敷のところには二階へ通ずる階段があった。「おーい、お客さんだぞ」鳶は大きな声で怒鳴りながら、さっさと階段を上がって行った。耕作たちは鳶のあとに続いた。二階は大広間になっていて、そこに卓が十個ほど配されており、そのうちの五つか六つの卓をそれぞれ客が取り巻いていた。杉戸はくんくんと鼻を鳴らし、「いい匂いだな」と言った。確かに肉を煮るうまそうな匂いが広間全体に立ち籠めていた。

(井上靖『北の海』p.278)

明治村には、神戸元町から移築した大井牛肉店(1887年/明治20年)があり、ここで実際に文明開化の象徴「牛鍋」を食べることができます。店の雰囲気は、まさに『北の海』のスキ焼屋そのままです。急な階段を2階に上がると、二間続きの部屋があり、卓が10個ほど並んでいます。この卓は当時の「牛鍋」用の猫脚テーブルを復元したものです。猫脚テーブルを囲んで牛鍋をつつくと、耕作の気分を味わえるかもしれません。

明治村の建築物の大半は築100年を越え、最も古い建物(小泉八雲避暑の家、香田露伴自宅)は築150年になろうとしています。これら多くの建築物を維持するだけでもお金がかかります。修繕の費用は、入場料収入に加え、各種イベントの収入や寄付金等で賄われています。(明治村の会計情報はホームページで開示されています。ご興味のある方はご覧ください。)

明治村では、多くのドラマや映画のロケも行われています。NHK朝ドラ『ごちそうさん』、NHKドラマ『坂の上の雲』、『白洲次郎』、『タイムスクープハンター シーズン4』、映画『さよならドビュッシー』、『剣岳 点の記』、フジテレビドラマ『浅見光彦シリーズ』等々。村内の教会(聖ヨハネ教会堂など)では結婚式を挙げることもできますし、帝国ホテルで披露宴をすることもできます。OB、OGの中で、挙式を予定している子供さんやお孫さんがいらっしゃれば、お勧めください。

明治村のサポーターを増やす為、東京・銀座に明治村のサテライトを設けるという構想もあるようです。私は地元のサポーターではありますが、寄付まではなかなか踏み切れないので、村民になることにしました。明治村では、誰でも村民(年間パスポート)になれます。好きな建物で住民登録できるので、四高の無声堂を選びました。

『明治は遠くなりにはけり』ですが、「明治村」は名古屋から1時間、とても近いのです。中古のタイムマシンを古道具屋で探さなくても、いつでも明治に行けます。四高と関わりの深い明治村を一度訪れてみてください。懐かしさと共に、きっと新しい発見があると思います。(文中敬称略)

参考資料：

博物館明治村公式ホームページ

<http://www.meijimura.com/>

別冊太陽(2005年)『明治かがやく』平凡社

山下洋輔(1990年)『ドバラダ門』新潮社

井上靖(1975年)『北の海』中央公論社

## 2013年 秋の小屋作業

### 15期 奥名 正啓

日程：2013年10月19日（土）

天気：曇り

参加者：久富 会長(20期) 黒崎(22期) 奥名(15期)

今回の山小屋行きは小屋の掃除を行って冬に向けての小屋じまいが目的である。そんな訳か、参加者が少ないのでそうなったのかは不明であるが、何はともあれ「継続は力なり」ということで実施の運びとなった。

7時30分寺津発電所ゲート前に集合し久富車に乗り換えて出発。犀川ダムまでの道は完全舗装となっているが全面通行止めのままである。

7時45分犀川ダム着。どうして通行止めなのか不思議に思われるほどごく普通に通れる道である。しかし常に落石の危険があるため万一にも責任問題とならな



いためであろうと思われる。落石は自然によるものとばかり思っていたが、話によると最近急激に生息数を増やしているイノシシが地面を掘りかえすことで起こることもあるようだ。

ダムは放水中であった。何度もこのダムを見てきたが放水している場面に出会ったのは初めてである。

9時10分吊り橋着。朝露でズボンはびっしょり濡れてしまった。この後さらにひどい目に遭うとも知らずに、冷たいズボンが気持ち悪く小屋に着いたらまず乾かそうなどと思っていた。

今年の夏は猛暑、その後に続いた集中豪雨で各地に大きな被害をもたらした。その大雨のためであろう、倉谷川の川筋が大きく変わってしまった。写真のとおり、以前、川の流れであっ

たところは石で埋まり(左側)、道であったところ(右側土手下)が本流となってしまった。



いったん引き返して山腹の道を探したが見つけれず渡渉することにした。引き返す手もあったが小屋を目の前にして何とかたどり着こうと黒崎君の先導で進むことにした。膝上まで水につかり何とか流されずに渡り切れた。



10時小屋着。無残な姿となっていた。屋根の片側半分近くのトタンがはがれて飛ばされてしまった。

入り口のドアは表の透明波板が大きくはがれ、いずれも過日の台風並みの強風によるものと思われる。屋根板の継ぎ目から雨漏りがあり、床に水が溜まっていたが幸いにもわずかであった。トタン屋根を拾い集めて元の場所に寄せようとしたが、如何せん不慣れた3人の手には負えず、棟にはしっかりとめ込むことは出来なかった。一応屋根板の上には乗せたが強風にでもあえばひとたまりもないかもしれない。

水がないと大変不便である。水源への道は

ササが生い茂ってよく分からずホースの中継バルブもなかなか見つからない。やっと見つけたバルブは閉めたら良いのか開いたら良いのか???



取水口をセットして右へ左へ回しているうちに何とか水が流れてきた。しばらくは泥水ばかりでなかなかきれいな水にならない。きれいになったように見えてもよく見るとかなり不純物が混じっている。掃除には使えるが食事にはちょっと遠慮したくなる。しかし適当なところできれいなものと見なして沸かして使った。

しばらくして小屋の上部からササをかき分けるガサガサという音がする。一瞬ギョッとしたが話し声も聞こえてきたので人間であることは間違いないのでひと安心。彼らは我々が強行に渡渉したところを山側に上がって方向を見定めてやってきた。さすがにこの辺の住人と言っても良い人たちではある。折角ここまで来てゆっくり泊まっていけばいいのになどと言われ、そうしたいところだがそうすると食事の準備からしないといけない。出来合いを持ってくると言うのも芸がない…。いずれにしても面倒。

水を確保できたので小屋の内部を掃除する。屋根のトタンは一時しのぎにしかならないので、その下にあたる部分には漏れた雨水を地面に流すようブルーシートを斜めに張った。入口の戸板は釘を打ち直したがほとんど

効いていない。

2時15分、秋の日は短い。そろそろ帰路につかないといけない。3人で証拠写真を撮影し小屋をあとにする。もちろん帰りも渡渉である。用心のためロープを使った。

ダム湖の切れ込みの間にテントを張っている人たちに呼び止められた。小屋の下にいつもテントを張っている木挽さんや向井さんたちがキノコパーティ?を楽しんでいるところであった。メッタ汁?、高級魚「キジハタ」の姿焼き、丹波栗などをごちそうになった。酒やらビールやらも飲んでいけと勧められたが、皆車で来ているのでこちらは遠慮した。紅一点、日帰りでもビールを飲んでいたようだが…。高桑君の碑の周囲の草を刈ってきれいにしておいた。

4時15分、ダム到着。

4時30分、寺津ゲートに帰着し解散。

次は来年の春になるだろうが、倉谷川は川筋がどう変わっているか分からない。山側の道を探さないといけないだろう。また小屋の屋根は応急処置しかしていないので、こちらもどうなっているかわからないが、きっちりした対応をしないとけないだろう。



金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会愛唱歌

# 森のうた

作詞：大野直子 作曲：OB会役員会

キ ミ は お ぼ え て い る  
ぼ く は も っ て い る か  
キ ミ は し っ て い る か

かい あ め あ が り の も り の に お い ー  
な み ね の お く の も り の ふ か さ  
い に こ げ そ よ ぐ ぶ な の も り を

こ お り だ す つ き  
と り の ー こ ど く  
や ま ぐ つ の ゆ め

オ レ ン ジ に そ ま る た に く だ っ た こ と  
あ の や ま で き み が つ ぶ や い た こ と ば  
く ら た に の タ ム シ バ の は な の し ろ さ

ぼ く は ほ し い ー

く も の よ ー う に  
オ オ シ ー ラ ビ ー ソ の  
カ タ ク リ の は ー な の

か わ り つ づ け る こ こ ろ  
た ち つ く す ー は げ し さ を  
ひ な た に お ど る き も ち

ぼ く は ほ し い -

く も の よ - う に  
オ オ シ - ラ ビ - ソ の  
カ タ Dm ク リ の は G7 - な の

か わ り つ づ け る こ こ ろ  
た ち つ - く す - は げ し さ を  
ひ な た に お ど る き も ち

金沢大学ワンダーフォーゲルOB会 愛唱歌

♪ 森のうた

- 一、  
キミは憶えているかい？  
雨あがりの森のにおい  
氷りだす月  
オレンジに染まる谷くだったこと  
ボクは ほしい  
雲のように  
変わりつづけるころ
- 二、  
ボクは持っているかな？  
峰の奥の深さ  
鳥の孤独  
あの山でキミがつぶやいた言葉  
ボクは ほしい  
オオシラビソの  
立ちつくす激しさを
- 三、  
キミは知っているかい？  
にこ毛そよぐブサの森を  
山靴の夢  
倉谷のタムシバの花の白さ  
ボクは ほしい  
カタクリの  
日なたに躍る気持ち

# KUWVOB会 会計報告

## 1. 収支報告 (平成20年9月1日～平成25年8月31日) (円)

【 収 入 の 部 】		【 支 出 の 部 】	
項 目	金 額	項 目	金 額
前回 (20. 8. 31) 繰越金	739, 947	OB会報 (やまざと) 印刷費	1, 195, 950
OB会費納入	2, 409, 000	OB会報 (やまざと) 郵送費	209, 858
寄付金	121, 000	「森のうた」CD作成費	278, 250
「森のうた」CD販売代金	120, 400	小屋酒場補助	206, 962
預金利息	1, 957	OB役員と現役との懇親会補助	160, 190
		50周年記念総会懇親会補助	152, 353
		事務費	49, 846
		支払手数料	15, 120
		郵送費	10, 130
		会議費	5, 999
		その他	41, 291
		(OB会のぼり旗、現役差入れ他)	
		次期 (25. 8. 31) 繰越金	1, 066, 355
計	3, 392, 304	計	3, 392, 304

## 2. 財産目録 (平成25年8月31日現在) (円)

科 目	金 額
KUWVOB会 一般会計	
(普通預金 北國銀行本店営業部)	887, 255
(郵便貯金 金沢貯金事務センター)	179, 100
合 計	1, 066, 355

## 3. 次の5年間の予算 (案) (平成25年9月1日～平成30年8月31日) (円)

【 収 入 の 部 】		【 支 出 の 部 】	
項 目	金 額	項 目	金 額
前回 (25. 8. 31) 繰越金	1, 066, 355	OB会報 (やまざと)	1, 500, 000
OB会費納入	2, 400, 000	小屋酒場補助	300, 000
預金利息	2, 000	OB役員と現役との懇親会補助	200, 000
		55周年記念総会懇親会補助	300, 000
		諸経費 (事務費ほか)	150, 000
		予備費	200, 000
		次期 (30. 8. 31) 繰越金	818, 355
計	3, 468, 355	計	3, 468, 355

